

(28) 高瀬山遺跡 (遺跡番号430)

所在 地 山形県寒河江市大字柴橋字落衣他

調査員 B調査 名和達朗

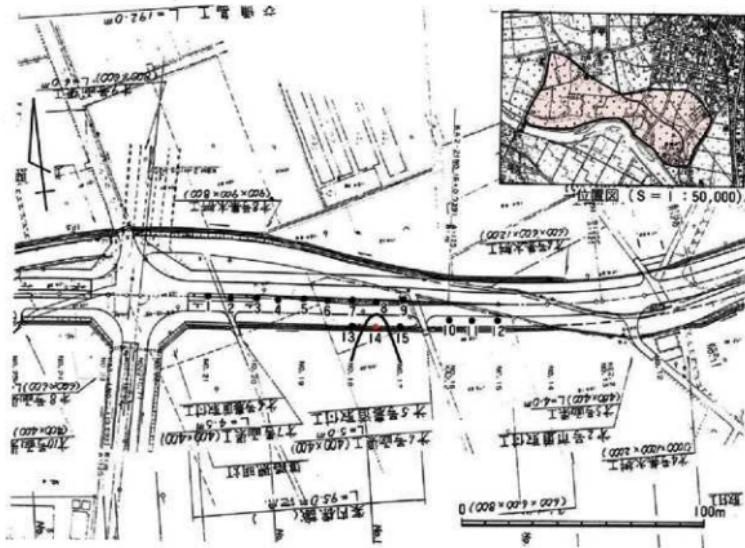
調査期日 B調査 平成9年5月20・21日

調査起因 主要地方道天童寒河江線道路改良

遺跡環境 遺跡は、寒河江市郊外南から南西方向の果樹畠、水田に位置する。この一帯は、高瀬山（標高122.5m）丘陵地及び微高地からなる最上川左岸の河岸段丘を形成する。遺跡は、緩やかな起伏のある段丘面を、最上川の流路沿いに東西に大きな広がりをもって立地する。その範囲は、東西1,600m・南北600mが考えられる。標高は、105~112.5mを測る。これまで東北横断自動車道酒田線等に伴い、遺跡のほぼ中央について東西方向に発掘調査が継続して行われ、旧石器時代から中世までの数多くの時期の資料が確認されている。今回の調査は、遺跡範囲の北西側に係る地区である。

試掘状況 現道南側の区域の畠地について、道路センター杭を基準に概ね10m間隔で15ヶ所の試掘区を設定し、人力で地山面まで掘り下げ遺構・遺物の分布状況を調査した。

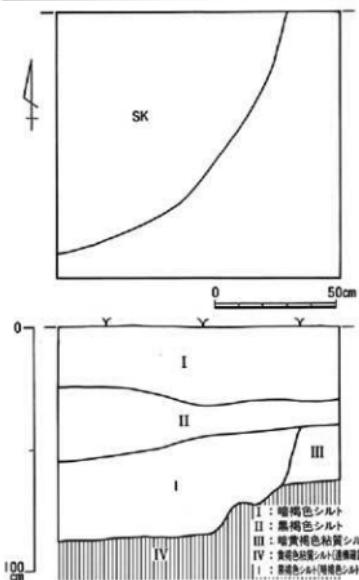
試掘結果 TP14から土壌と考えられる落ち込みの一部を検出できた以外、試掘ヶ所から遺構・遺物はみとめられなかった。遺構確認面は、深さ60cmを測る。そのため今回の調査区域は遺跡範囲の一部に係るものと考え、今後の工事に際しては、TP14地点について立会調査を行うこととした。



第53図 高瀬山遺跡概要図



遺跡近景（東から）



TP 44遺構検出状況（南から）



TP 44土層断面（南から）

図版59 高瀬山遺跡

(29) 落衣長者屋敷遺跡 (遺跡番号433)

所在地 山形県寒河江市大字柴橋字金谷他

調査員 B調査・立会調査 名和達朗

調査期日 B調査 平成9年5月20・21日

立会調査 平成9年12月10日

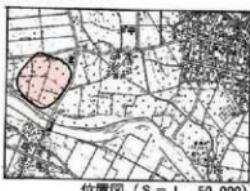
調査起因 主要地方道天童寒河江線道路改良

遺跡環境 寒河江市郊外南西に位置する。遺跡の南側は最上川左岸で、そこに微高地状に広がる河岸段丘に立地する。遺跡東方は、高瀬山（標高122.5m）丘陵を望み、中央を東西に東北横断自動車道酒田線が走る。遺跡範囲は、東西550m・南北600mと考えられる。地目は、大半が畠地・一部水田である。調査地区の標高は、約106mを測る。

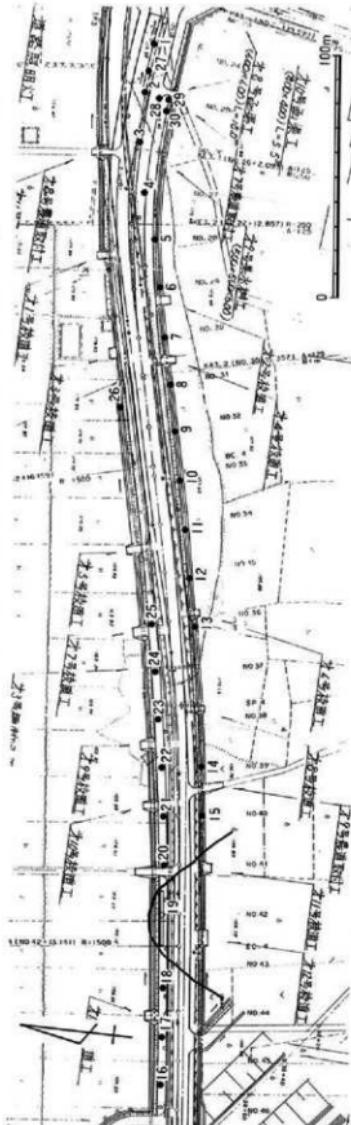
試掘状況 道路幅に沿って30ヶ所の試掘区を概ね20m間隔で設定し、人力で地山まで掘り下げ遺構・遺物の分布状況を調査した。東側については、現道から拡幅する工事幅が広いことから少し調査間隔を密に進めた。

調査結果 T P19で溝状遺構の落ち込みがみとめられた以外、遺構・遺物が検出できなかった。遺構確認面は、深さ56cmを測る。そのため今回の調査区域は遺跡範囲の一部に係るものと考え、今後の工事に際しては、TP19地点について立会調査を行うこととした。

試掘確認地点について重機使用によるトレンチを設定して立会調査を行った結果、柱穴2基、溝跡2条を確認した。出土遺物がみとめられなかつたが、これまでの発掘調査結果を参考にして、時期は、奈良・平安時代以降の所産と考えられる。



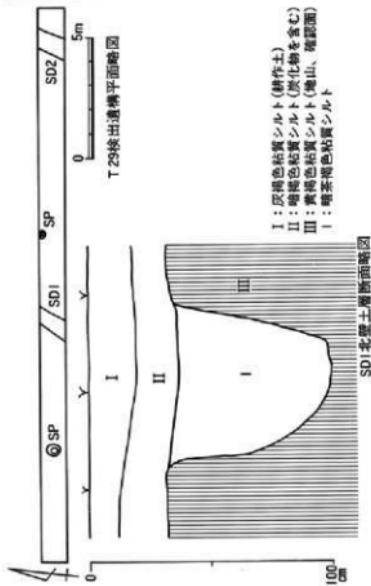
位置図 (S=1 50,000)



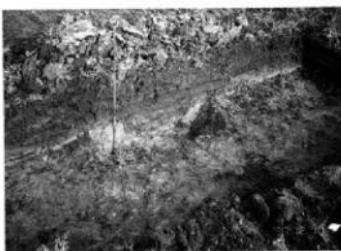
第54図 落衣長者屋敷遺跡概要図



遺跡近景（東から）



T 1 調査状況（東から）



T 1 土層断面（南から）

図版60 落衣長者星數遺跡

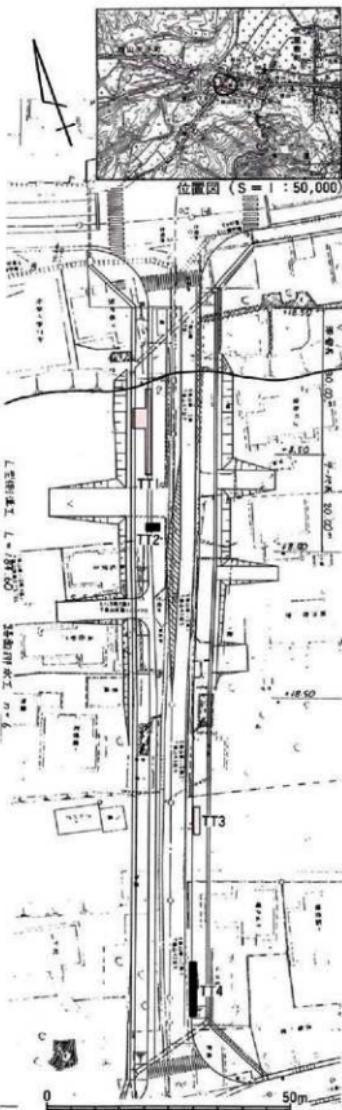
(30) 大樽遺跡 (米沢市遺跡地図 G-150)

所 在 地 山形県米沢市館山4丁目ほか  
調 査 員 長橋 至 渋谷孝雄  
調査期日 A調査 平成9年11月11日  
B調査 平成9年12月11~12日  
起因事業 一般県道網木西米沢停車場線道  
路改良

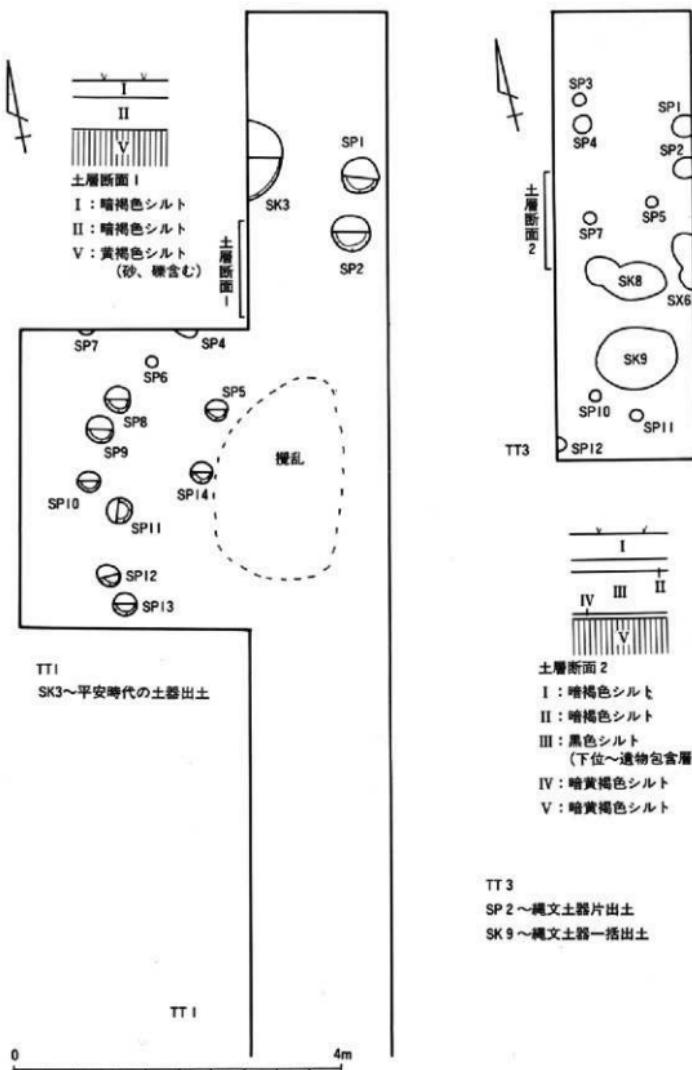
遺跡環境 米沢市街地南西部、大樽川右岸  
の河岸段丘上に立地する。本遺跡を含む範囲  
で中世の館山平城のほか、国指定史跡「一ノ  
坂遺跡」、館山a~d遺跡等の縄文時代の遺跡  
が数多く所在している。

試掘状況 平成10年度事業実施予定地のうち、用地その他の状況から調査が可能な場所  
に試掘溝を設定し、重機で掘り下げた。北側  
からTT1とし、TT4まで調査した。

調査結果 TT1は長さ17m、遺構が検出  
された部分については一部拡張した。遺構検  
出面までは、約50~60cmを測る。遺物包含層  
はない。遺構はトレンチ北側で確認された。  
土壌1基、柱穴13個で、SK2では平安時代  
の土器が出土した。このトレンチの南側は地  
山が砂疊層となり、遺構等は確認されなかっ  
た。TT2は遺構・遺物未検出、TT4は宅  
地跡のため、地山まで調査区の大半が擾乱を  
受けている状況であった。TT3ではまとま  
った遺構と遺物が検出された。この部分は良  
好な遺物包含層が認められ、またシルト質の  
地山となり遺構も明確に検出された。特に、  
SP2とSK9では遺構確認面で縄文土器が  
覆土から出土する状況を呈した。SK9では  
一括出土の土器も見られ、検出したものにつ  
いては取り上げた。出土した土器から時期は  
縄文時代後期と推定される。本遺跡は、現道  
下も一部良好に遺存していることが予想され  
る。



第55図 大樽遺跡概要図



第56図 大槻遺跡検出遺構平面図・断面図



遺跡近景（南から）



遺構検出状況（TT 1、南から）



遺構検出状況（TT 3、南から）

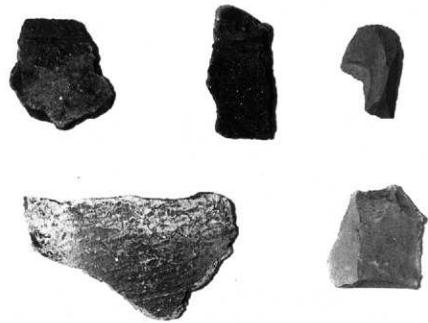


検出遺構、土器出土状況（TT 3、南から）

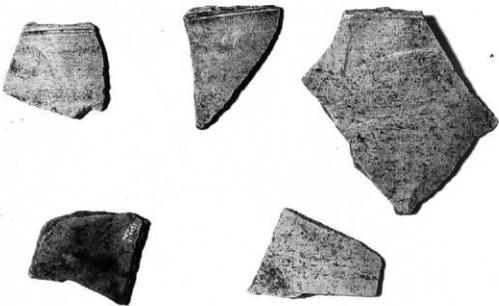


土層断面（TT 3、東から）

図版61 大棒遺跡（1）



出土遺物（1）



出土遺物（2）

図版62 大棒遺跡（2）

(31) 藤島D遺跡（平成9度登録）

所 在 地 山形県飽海郡藤島町中町

調 査 員 長橋 至

調 査 期 日 平成9年12月9～10日

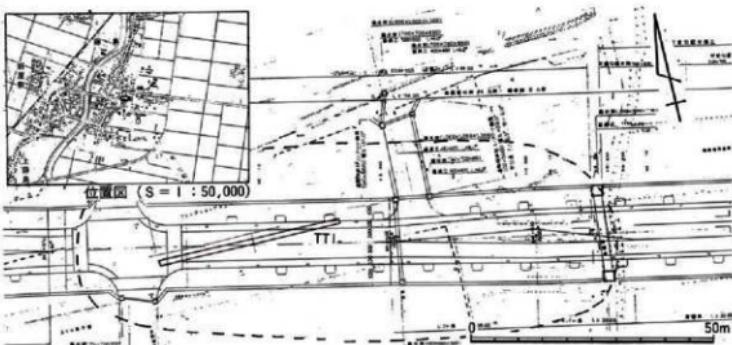
起 因 事 業 藤島駅笹花線都市計画街路事業

遺 跡 環 境 藤島町中心部に位置する。西側約200mに南北朝に遡る藤島城本丸がある。本遺跡は、旧藤島城下の一部となる。

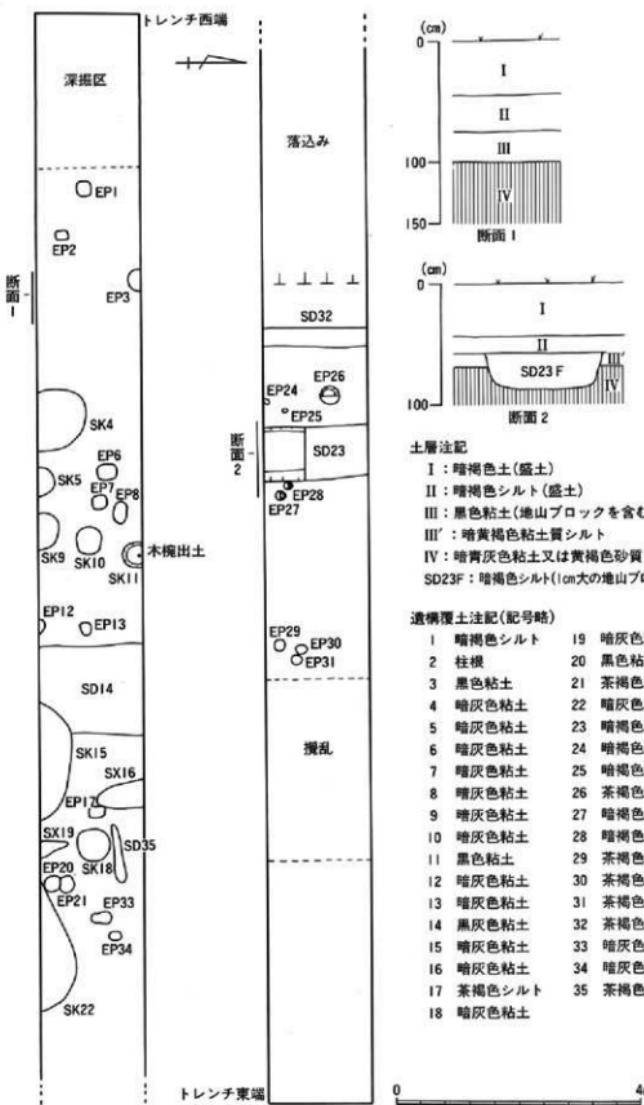
試 挖 状 況 平成10年度事業実施予定地のうち、用地その他の状況から調査が可能な場所に重機で試掘溝を幅1.7m、長さ38mで設定した。なお、今回調査した地区的東側については改めて試掘調査を実施する。

調 査 結 果 約10基の土壌、20個の柱穴、3条の溝状造構が検出された。造構は現地表から60～100cmの盛土層の下層で検出された。検出した造構の配置、覆土の状況は第58図のとおりである。遺跡全体としては、過去の整地等で中世の遺物包含層はほとんど削平されているものと思われる。また、トレンチ中央付近で地山の落ち込み、東側で近代の擾乱が認められた。遺物は、SK11から木製漆塗り椀が出土したほか瓦器片が1点出土したにとどまる。造構の状況把握のため、SK11、SD23、EP26～28について半裁したが、これら造構の時期を特定する遺物は得られなかった。しかし、調査対象地区は、藤島城域の東側の堀跡外側にほぼ隣接する地点（「筆濃余里」ほか）と考えられることから、南北朝時代から戦国時代、そして近世（江戸時代）に亘る遺構が存在することが予想される。

なお、現地調査時に、遺跡の位置を再確認したところ、当初藤島B遺跡とした今回の調査対象地区は、県指定文化財「独木舟」の出土地点の藤島B遺跡とは地点が異なることが明らかとなった。本来の藤島B遺跡は、現在の藤島郵便局移転前の旧郵便局の北側隣接地にあたり、現在の県遺跡地図に記載されている藤島B遺跡の位置は修正が必要である。



第57図 藤島D遺跡概要図



第58図 藤島D遺跡検出遺構平面図・断面図



遺跡近景（西から）



遺構検出状況（トレンチ西側、車から）

図版63 藤島D遺跡（1）



遺構検出状況（トレンチ西側近景、車から）



遺構半蔵状況（トレンチ東側、車から）



遺構検出状況（トレンチ西側近景、西から）



土層断面（S P 3、北から）



出土遺物

図版64 藤島D遺跡（2）

(32) 城南一丁目遺跡（平成9年度登録）

所在地 山形県山形市城南一丁目

調査員 渡谷孝雄 長橋至 山形市教育委員会 江川 隆 斎藤 仁

調査期日 B調査 平成9年8月26・27日 平成9年11月17~28日

起因事業 山形西区画整理事業

遺跡環境 遺跡はJR奥羽本線山形駅の西側に隣接する。馬見ヶ崎原状地の扇端に近い扇中央部に立地する。標高は調査地で131m前後を測り、西に行くにつれて低くなっている。地目は宅地であるが現在は駐車場として利用されている。史跡「山形城」の本丸から南に500mの位置にあり、山形城の三の丸の域内に所在する。

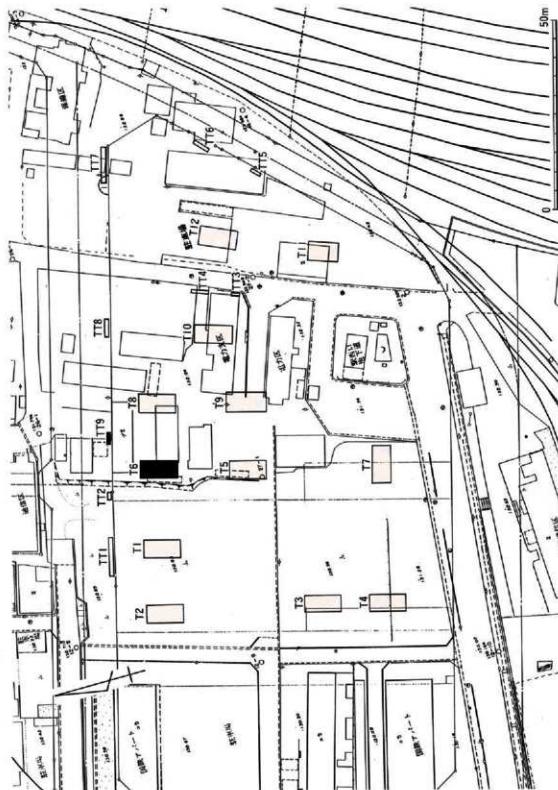
同様な立地条件の遺跡としては本遺跡の南東1.5kmの山形市鉄砲町に所在する山形西高等学校敷地内遺跡があり、ここでは繩文時代中期、晚期、弥生時代中期、古墳時代前期、奈良時代、平安時代の集落跡と遺物が発見されている。

試掘状況 8月の試掘調査は駅西区画整理事業の中核的な施設となる高層ビルの建設予定となっている地区に埋蔵文化財が存在するのかどうかを明らかにするための調査で駐車場内外の空き地にTT1からTT9の9ヶ所を設定して地山までの掘り下げを行った。

11月の調査は8月の調査でその存在が明らかとなった遺跡の調査歩掛かりの積算のための調査で開発事業予定地区内にT1からT12の12箇所に基本的に10×5mのトレンチを設定して調査を進めた。この調査では地山面まで掘り下げて遺構の分布状況を把握した上で、



第59図 城南一丁目遺跡位置図



第60図 城南一丁目遺跡トレンチ配置図

さらに、手掘り土量の総量を把握するために遺構の一部の掘り下げも行った。

なお、12月の調査経費は区画整理の事業主体である山形市がその費用を負担した。

#### 調査結果 各調査トレンチの状況を以下に記す。TT1~9のトレンチ幅は0.7mである。

TT1は延長10mのトレンチである。現地表下80cm~110cmで暗褐色砂質シルトの地山に達する。地山までの各層は擾乱を受けており、遺構は確認できなかった。平安時代の土師器、繩文土器、近世の窯道具である陶枕が計4点出土した。

TT2は延長2mのトレンチである。現地表下145cmで黄褐色砂礫の地山に達する。遺構は未確認。擾乱層から土師器、須恵器、近世の磁器が小袋に1袋分出土した。

TT3は延長2mのトレンチである。現地表下140cmで黄褐色砂礫の地山に到る。約60cmの盛土から下位は比較的安定した堆積となっている。地山直上の黒色シルト層から土師器、赤焼土器が出土した。

TT4は延長5mのトレンチである。現地表下150cm~120cmで暗褐色シルトの地山に達し、地山面は南が低く、北が高い。東西方向の溝状遺構2条、方形の落込みの一部が検出された。遺構の時期は明確ではないが、中・近世の可能性が高いものと考えられる。赤焼土器2点、陶器2点が出土した。

TT5は延長2mのトレンチ。現地表下70cmで黄褐色砂質シルトの地山に達する。幅30cmの溝跡1条を検出した。遺物は出土していない。

TT6は延長6mのトレンチ。現地表下75cmで暗褐色砂質シルトの地山に達する。柱穴1基、土坑1基、方形の落込みの一部が検出された。方形の落込みは古代の窓穴住居跡の可能性がある。他に、旧国鉄時代のゴミ捨て穴が2基検出された。土師器片が小袋で0.5袋出土した。

TT7は延長9mのトレンチである。現地表下80cmで暗褐色砂質シルトの地山に達する。盛土の下は、安定した層となり、地山面で土坑3基、溝状遺構1条、柱穴9基を検出した。検出遺構は古代のものと、中・近世のものがある。土師器、磁器が数点出土した。

TT8は延長5mのトレンチである。現地表下100cmで地山に達するが、全体的に大きく擾乱を受けているため、調査を断念した。

TT9は延長3mのトレンチである。深さ150cmまでの掘り下げを行ったが地山に到達しなかった。クレゾールの異臭が激しく、旧国鉄時代の擾乱と考えられる。

TT10は57cmから95cmで遺構確認面に達する。地山は北側に傾斜している。大型の土坑SK1や落込み(SX2, 3)、幅70~100cmの南北の溝跡、ピットなどが検出された。一部精査を行った遺構からはいずれも近世の陶磁器が出土しており、遺構の時期は大半が近世とみられる。なお、SK1からは須恵器、瓦、土師器裏の破片が出土している。

TT11は82~100cmで遺構確認面に達する。地山はなく、調査区全てが遺構覆土となっている。SK1、2などこの面で確認できる遺構は大半が近世の所産と考えられるが、SK2の下層からは奈良・平安時代の土器がまとめて出土しており、近世に切られた古代の構構の存在が予測できる。TT2からは弥生土器も出土している。

TT3は87~117cmで地山に達し、大型の落込み(SX1)や南北に走る溝跡2条等の遺構が検出された。SX1からは近世の陶器、磁器、かわらけ等が出土している。

TT4は82~101cmで地山に達する。角柱をもつ掘り方(EB4)やEB3、大型の落込み(SX1)、南北の溝跡(SD2)のほか、小礫を突き固めた礫石建物の基礎部分が1列に4基検出されている。SX1では近世の陶器瓦が出土し、SD2では古代の土師器や須恵器片が出土しているが、近世のSX1を切っているので遺構自体は古くはない。

TT5は89~104cmで地山に達する。調査区北端にある大きな落込みSX1とその中に収まるSX3東西に走る溝跡、ピット群等が検出された。遺構の確認作業中に繩文土器、土師器、珠洲系の中世陶器等が出土している。

TT6は全面的に擾乱を受けており、現地表から220cmで黄褐色砂礫の地山に達するが、この面では遺構が発見されなかった。

TT7は東西トレンチで100~119cmで達する。不整形で大型の落込みが數カ所で検出されたほか、ピットが数基検出された。遺物はSX2から繩文土器や土師器が出土したのをはじめ、奈良・平安時代の須恵器や土師器の出土量が比較的多い。

TT8は現地表から80~90cm下位では擾乱が認められ、明瞭な遺構プランを明らかにできず、さらに10~20cm掘り下げた南部で部分的にピットなどの遺構が検出された。遺物は若干の近世陶器が出土するに留まった。

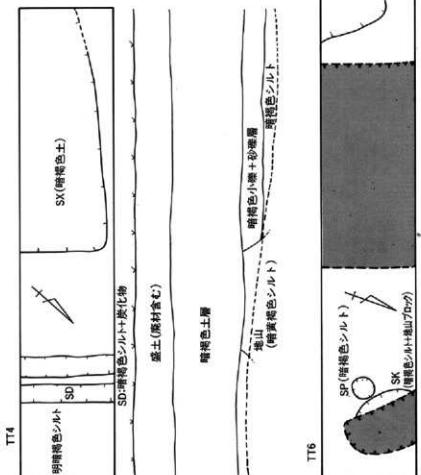
TT9は110~130cmでやや明るい暗褐色土の地山に達する。この地山面で落込みや土坑(SK1)、溝跡が検出されたが、これらの部分精査の結果、深い遺構ではなく、例外なく底面は地山の下位にある礫層となることが明らかとなった。遺物は遺構に伴う近世の陶器片と土師器片がある。

TT10は106~143cmで遺構確認面に達するが地山の黄褐色砂礫が検出されたのは調査区の南東隅に限られる、他は遺構覆土となっている。大型の落込みやそれを切る土坑(SK1)、溝跡などが検出されている。SK1、SX2から近世陶器と土師器、須恵器などの土器片が出土している。

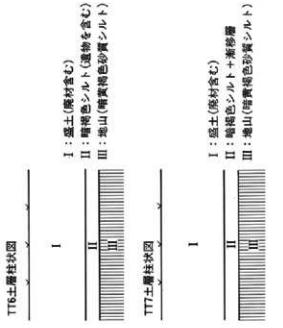
TT11は86~107cmで地山の明褐色シルトに達する。調査区の北部を除き大型で不整形な落込みが切り合っている。部分的な精査でこれらの落込みは確認面から1mを越える深さを持つ遺構も存在することが明らかとなった。土師器や須恵器と近世の陶磁器が出土している。

TT12は114~135cmで地山の黄褐色砂質シルトに達する。調査区の北半は大きく擾乱を受けている。南半部で落込みやピットが検出されているが、密度は高くはない。遺物は近世の陶磁器の他、奈良・平安時代の土師器、須恵器片が出土している。

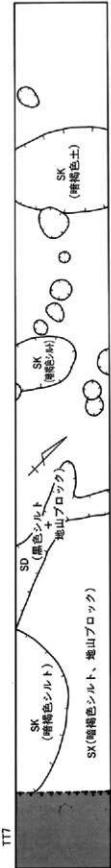
以上のように、本遺跡には近世を中心とする遺構が多数分布していることが明らかとなった。出土した遺物は繩文土器、弥生土器、土師器、須恵器、中世陶器、近世の陶磁器、瓦、近現代の陶磁器がある。量的には奈良・平安時代の土師器、須恵器が多数を占めるが当該期の明確な遺構は検出できなかった。



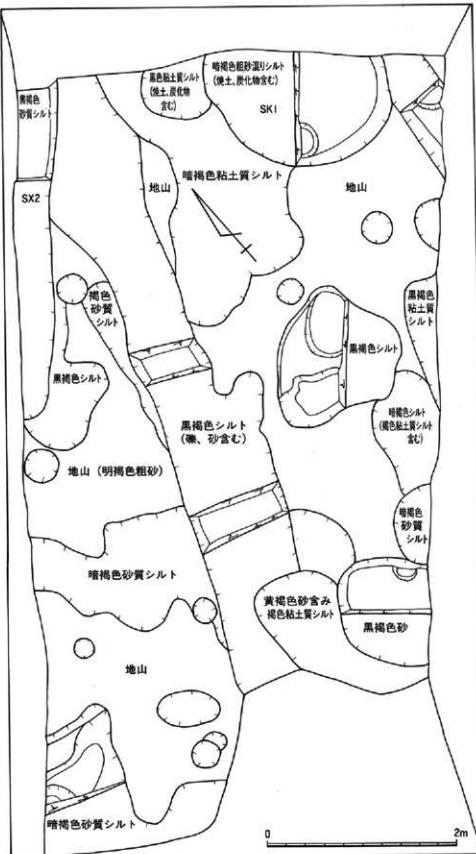
第61図 城南一丁目遺跡 T T 4・6・7 平面・断面図



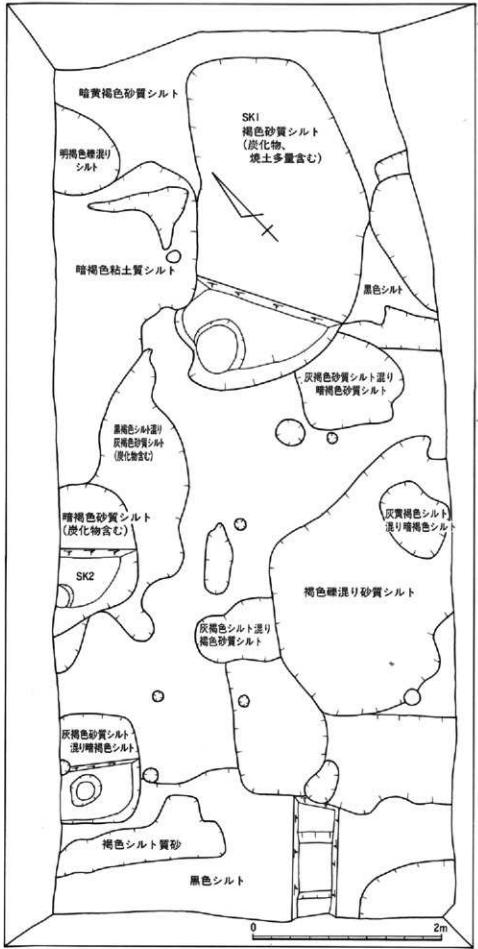
TT6土層柱狀圖



117

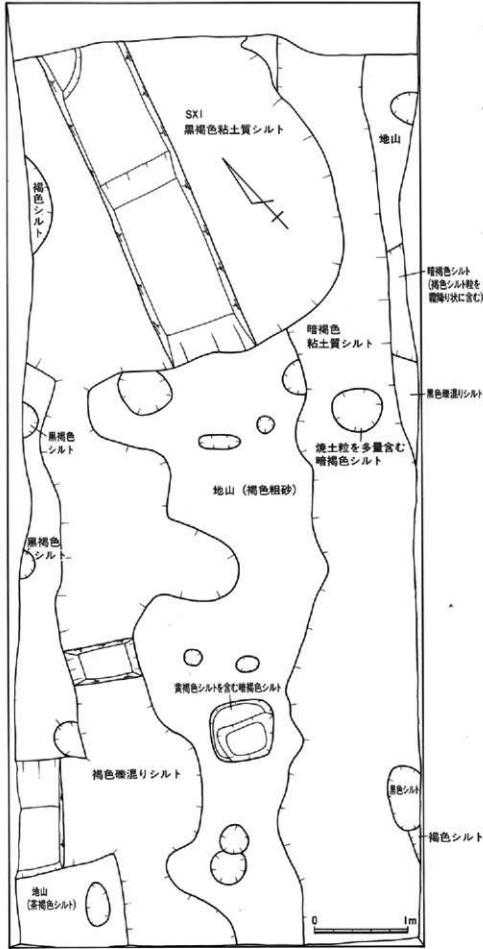


第62図 城南一丁目遺跡 T1 平面図



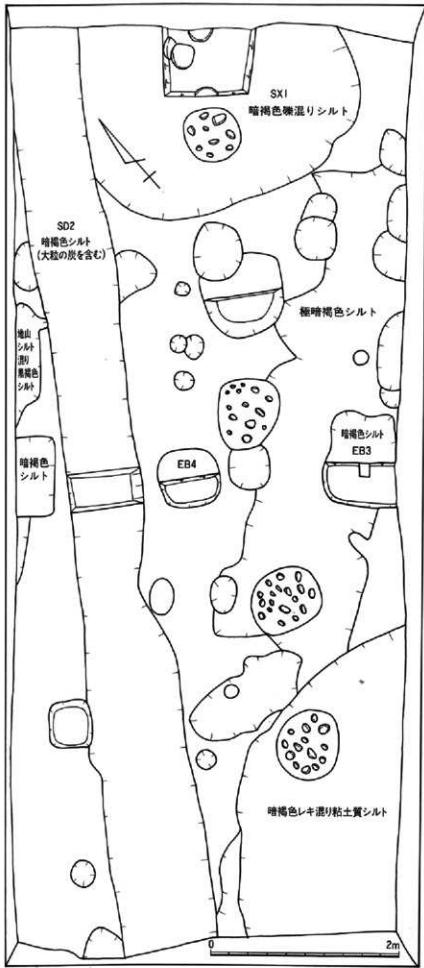
第63図 城南一丁目遺跡 T 2 平面図

- 134 -

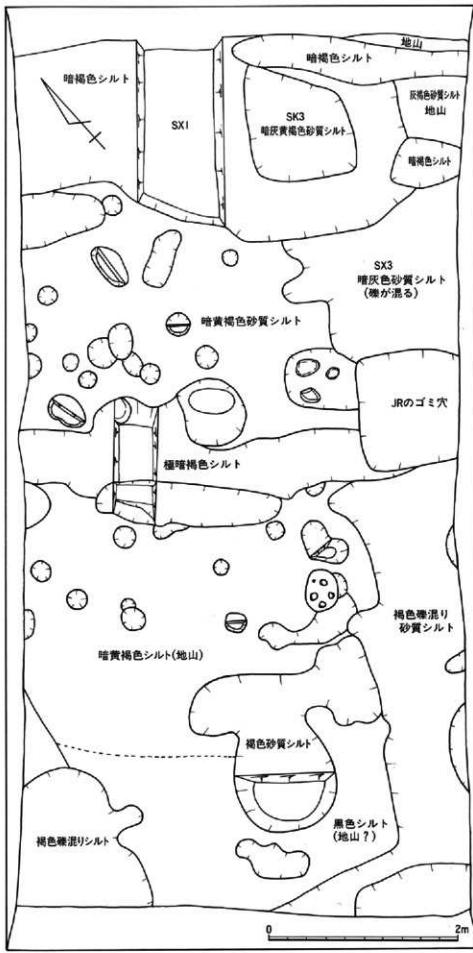


第64図 城南一丁目遺跡T3平面図

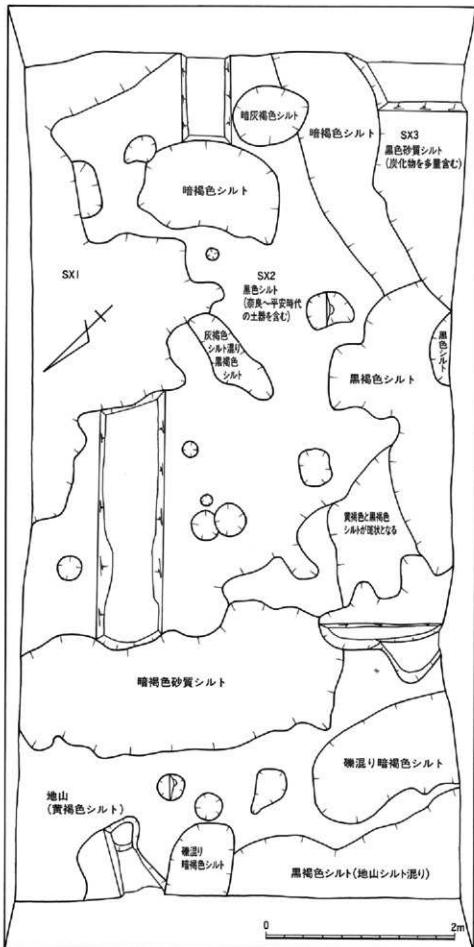
-135-



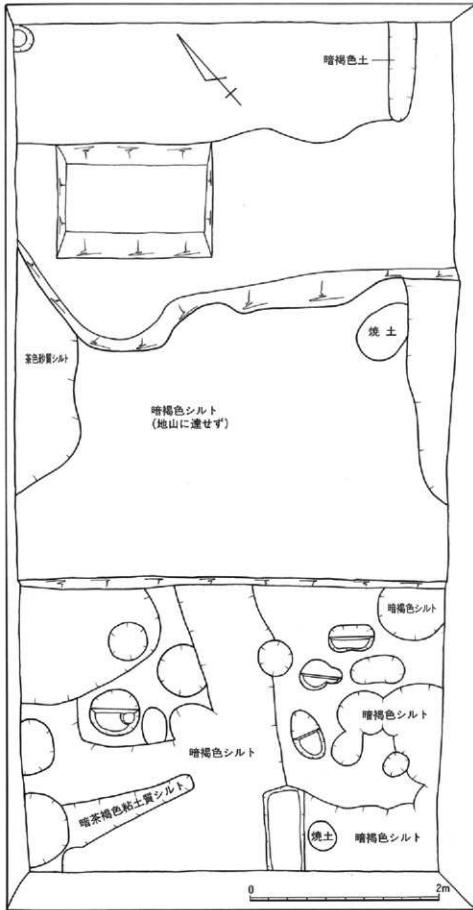
第65図 城南一丁目遺跡 T 4 平面図



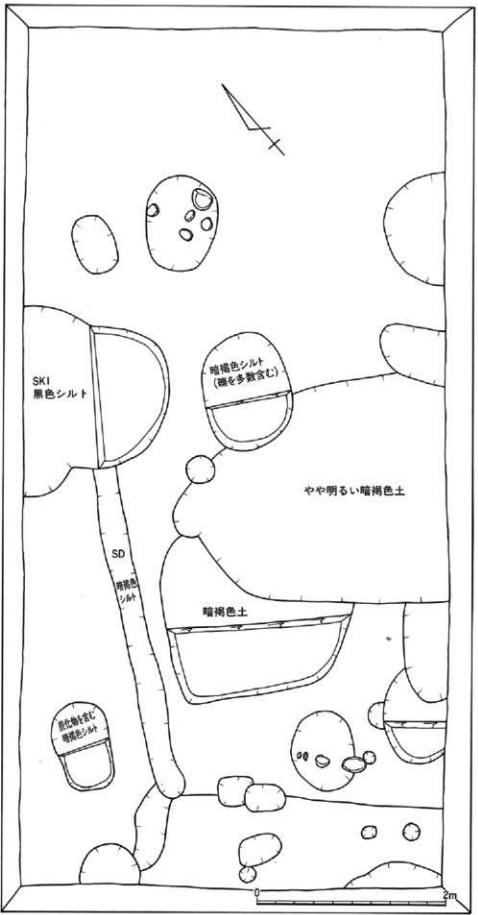
第66図 城南一丁目遺跡 T 5 平面図



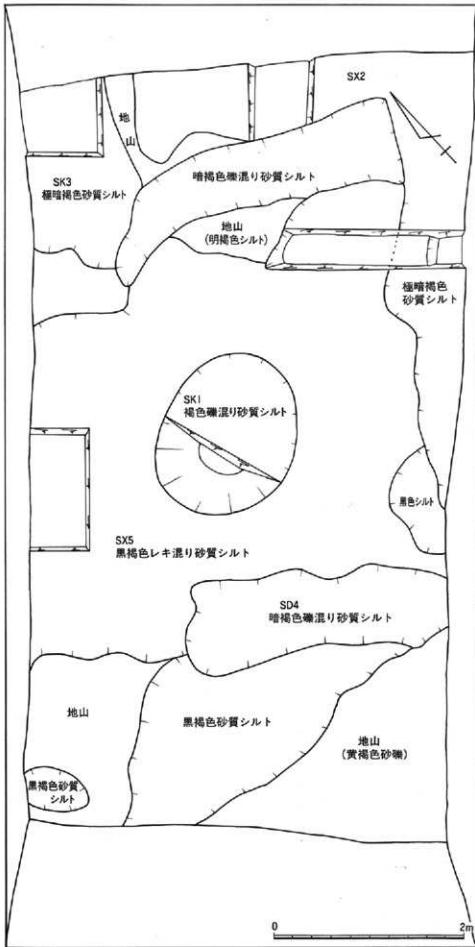
第67図 城南一丁目遺跡T7平面図



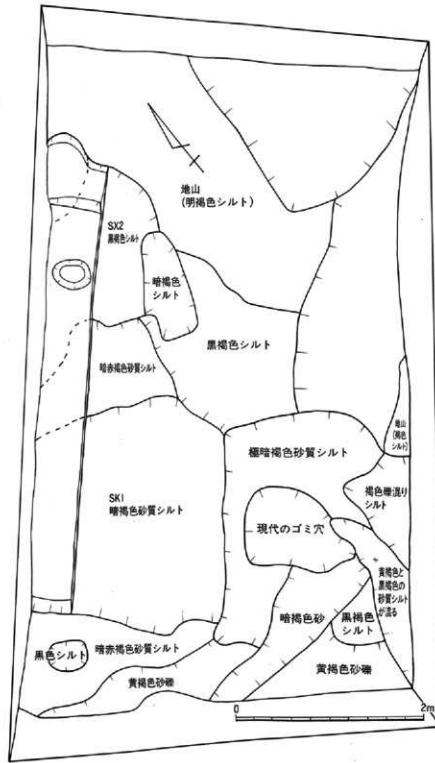
第68図 城南一丁目遺跡T 8 平面図



第69図 城南一丁目遺跡 T 9 平面図

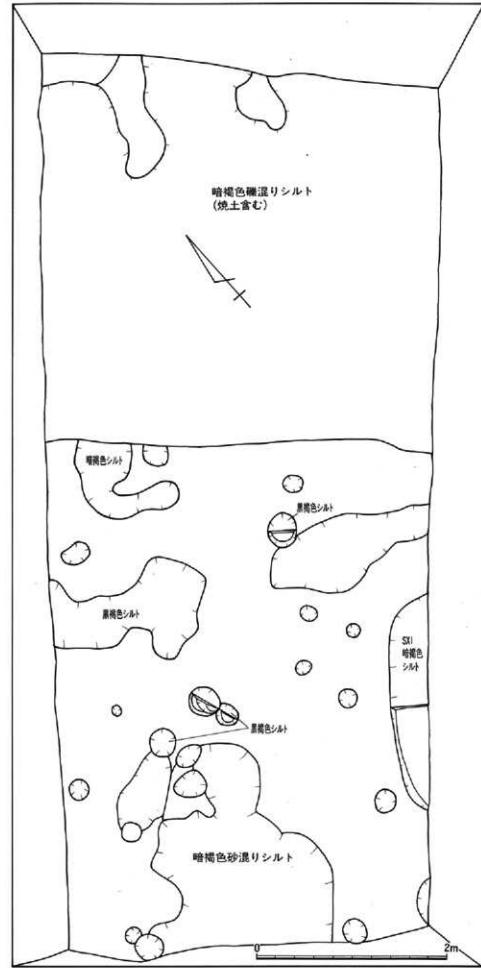


第70図 城南一丁目遺跡 T 10 平面図



第71図 城南一丁目遺跡T11平面図

— 142 —



第72図 城南一丁目遺跡T12平面図

— 143 —



遺跡近景（北から）



TT 4 遺構検出状況（北から）



TT 6 遺構検出状況（南から）

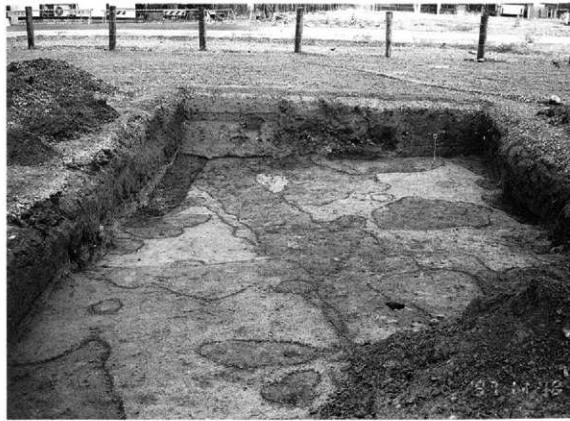


TT 7 東部遺構検出状況（東から）



TT 7 西部遺構検出状況（北から）

図版65 城南一丁目遺跡（1）



T I 遺構検出状況（南から）



T I 検出遺構部分精査（南から）

図版66 城南一丁目遺跡（2）

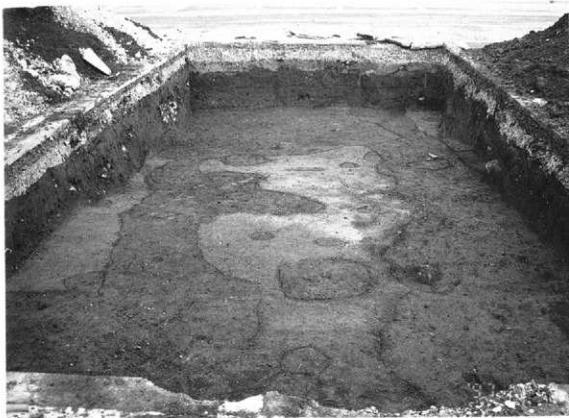


T2 遺構検出状況（南から）



T2 遺構部分精査（南から）

図版67 城南一丁目遺跡（3）



T3 遺構検出状況（南から）



T3 遺構部分精査（南から）

図版68 城南一丁目遺跡（4）



T4 遺構検出状況（南から）



T4 遺構部分精査（南から）

図版69 城南一丁目遺跡（5）

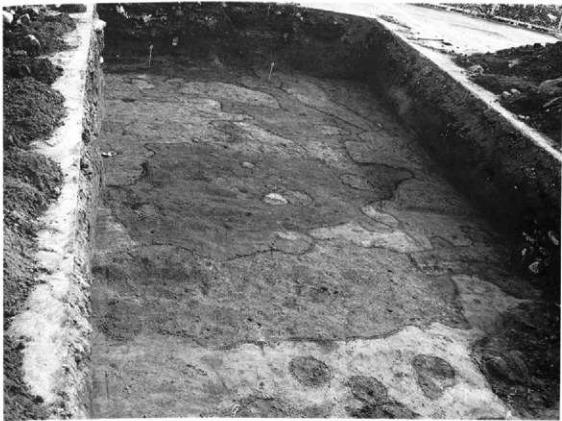


T5 遺構検出状況（南から）



T6 全景（南から）

図版70 城南一丁目遺跡（6）



T 7 遺構検出状況（西から）



T 7 遺構検出状況（南西から）

図版71 城南一丁目遺跡（7）



T 8 遺構検出状況（北から）



T 8 南半部遺構検出状況（西から）

図版72 城南一丁目遺跡（8）



T 9 遺構検出状況（北から）



T 9 遺構部分精査（南から）

図版73 城南一丁目遺跡（9）



T 10 遺構検出状況（（南から）



T 10 遺構部分精査（南西から）

図版74 城南一丁目遺跡（10）



T11遺構検出状況（北東から）



T11西部落込み一部精査（南東から）

図版75 城南一丁目遺跡 (11)



T12遺構検出状況（南西から）



T12遺構部分精査（南東から）

図版76 城南一丁目遺跡 (12)



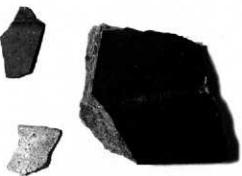
TISK1出土遺物（須恵器、土師器）



TISK1出土遺物（近世陶器）



TISX2出土遺物（近世陶器）



TISX3出土遺物（須恵器、近世瓦）



T 2出土遺物（須恵器）



T 2出土遺物（須恵器）



T 2出土遺物（土師器）



T 2出土遺物（須生土器）



T 2出土遺物（近世陶磁器）



T 2出土遺物（近世陶器）



T2SK2出土遺物（土師器、須恵器）



T2SK3出土遺物（土師器）



T3SX1出土遺物（土師器、須恵器）



T3SX1出土遺物（近世磁器）



T3SX1出土遺物（近世陶器）



T3SX1出土遺物（近世かわらけ）

図版77 城南一丁目遺跡 (13)

図版78 城南一丁目遺跡 (14)



T 4 出土遺物（近世陶器）



T 4 出土遺物（近世瓦）



T4SX1 出土遺物（近世瓦）



T4SD2 出土遺物（須恵器、土師器）



T 5 出土遺物（縄文土器）



T 5 出土遺物（土師器）



T 5 出土遺物（中・近世陶器）



T 7 出土遺物（須恵器）



T 7 出土遺物（土師器）



T 7 出土遺物（近世陶器）



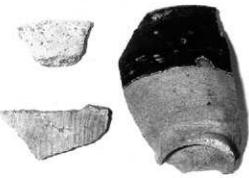
T7SX2（縄文土器）、SX3（土師器）出土遺物



T 8 出土遺物（近世陶器）



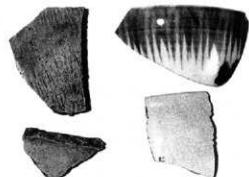
T9SK1 出土遺物



T10SX1（左）、SX2（右）出土遺物



T 11 出土遺物（左：土師器、右：近世陶器）



T 12 出土遺物（左：土師器、右：近世陶磁器）

圖版79 城南一丁目遺跡（15）

圖版80 城南一丁目遺跡（16）

(33) 大浦 d 遺跡 (米沢市遺跡地図 J 410)

所在 地 山形県米沢市中田町

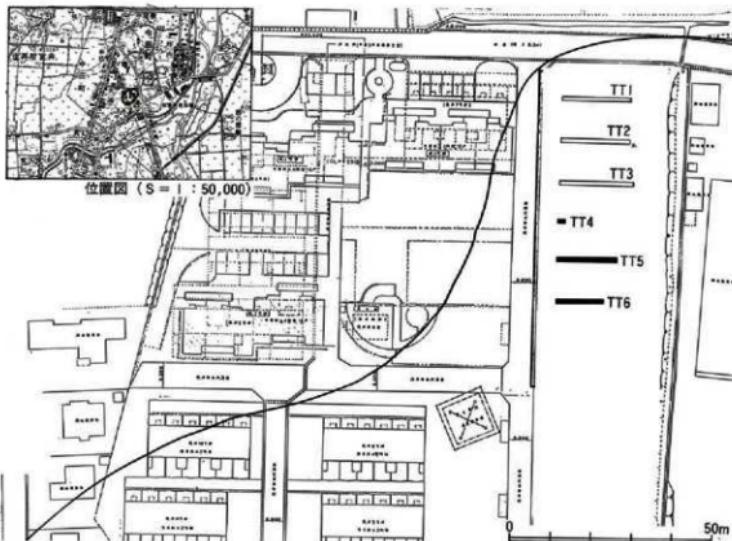
調査 員 長橋 至

調査 期 日 平成 9 年 3 月 28 日

起因 事 業 県営住宅中田町団地建替事業

遺 蹤 環 境 米沢市街地北部、最上川（松川）と羽黒川の合流点の西側、最上川左岸の河岸段丘上に立地する。本遺跡周辺には、古代官衙跡と想定される大浦 a 遺跡、中世の集落跡・城館跡の大浦 b 遺跡、古代官衙跡及び中世城館跡・集落跡と考えられる大浦 c 遺跡が近接している。

試掘 状 況 県営住宅撤去後、事業予定地内に幅1.7mの試掘溝を全体で 6 カ所設定した。  
調査 結 果 北側の TT 1 ~ 3 で遺構が確認された。TT 1 では溝状遺構が 1 条検出された。幅70cm程で覆土は黒色粘質土である。TT 2 では径 1 m の土壤、径30cm前後の柱穴が 2 個検出された。覆土は黒色粘質土である。TT 3 では柱穴が 3 個検出された。E P 5 ・ 7 は径40cm、E P 6 は径20cmを測る。覆土はいずれも黒色粘質土である。TT 4 は、試掘溝設定地点に水道管が敷設されていたため、4 m の調査で中止した。TT 5 では調査区の南側が泥炭層となり湿地と考えられた。TT 6 も同じ状況を呈した。調査対象地は全体に 120~130cm の盛土が認められた。隣接する大浦遺跡群の調査結果などから、中世の所産と推測される。なお、今回の対象地区は、団地の駐車場となるため、遺跡は現状保存とする。



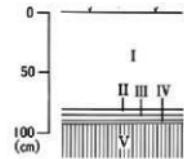
第73図 大浦 d 遺跡概要図



SD1 TT1

土層断面

ED4 ○ EP3  
SK2 TT2



土層注記  
I : 盛土  
II : 喀褐色シルト(旧水田耕作土)  
III : 喀褐色シルト(旧水田整土)  
IV : 喀褐色シルト質粘土  
V : 喀灰色粘土

EP7 ○ EP5  
EP6 TT3

TT4

泥炭層 TT5

0 10m

第74図 大浦d遺跡検出遺構平面略測図



遺跡近景・調査状況（北から）



調査区全景（南から）

図版81 大浦d遺跡（1）



土坑検出状況（TT 2、北東から）



柱穴検出状況（TT 3、西から）

図版82 大浦d遺跡（2）

(34) 四ツ塚遺跡 (遺跡番号481)

所 在 地 山形県西村山郡河北町大字吉田字馬場164ほか

調 査 員 長橋 至

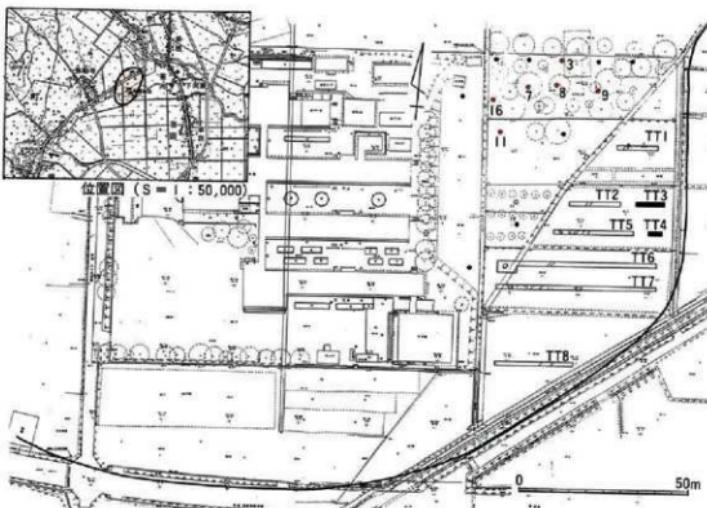
調 査 期 日 平成 9年 9月 8日 11月19日

起 因 事 業 山形県立救護施設みやま荘改築整備事業

遺 蹤 環 境 河北町北西部の山麓の緩傾斜地に立地する。周辺の山麓には縄文時代や平安時代のいくつかの遺跡が散在している。

試 挖 状 況 事業予定地について、9月に畑地・果樹園部分（試掘坑15ヵ所）、11月に水田部分（試掘溝8ヵ所、重機使用）を調査した。

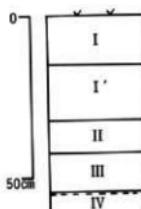
調 査 結 果 9月の調査では、15ヵ所の試掘坑のうち7ヵ所で遺構・遺物が検出された。TP3・8では柱穴1、TP6では土壙1基、TP7からは溝跡1条、TP9では土壙1基、柱穴3、TP11では柱穴、TP12では方形の柱穴2が検出された。遺物は全体に希薄で、須恵器・赤焼き土器片が数点出土した。西側畑地は、現みやま荘建築の際、削平されていることが明らかとなった。11月の調査では、南北方向に走る幅1～2mの溝状遺構がTT3・4を除く試掘溝で連続して確認された。また、TT6では西端部で径1m程の土壙が検出された。水田部分については、東側約3分の1の地山が砂礫となること、堆積土が泥炭質となることから遺構は分布しないことが予想される。調査対象地の大部分について、平成10年度に記録保存のための緊急発掘調査を実施する予定である。



第75図 四ツ塚遺跡概要図



遺跡近景（東南から）



- I : 喀褐色シルト
- I' : 喀褐色シルト  
(地山小ブロックを含む)
- II : 喀褐色シルト  
(1 cm大の風化礫を含む)
- III : 喀黃褐色シルト
- IV : 黄褐色砂質シルト

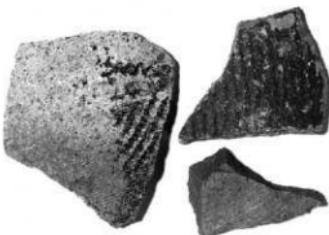
土層柱状図



TP 2 検出遺構（西から）



TT 1 検出遺構（南から）



出土遺物

図版83 四ツ塚遺跡

(35) 田制館跡 (平成9年度登録)

所 在 地 山形県東置賜郡川西町大字西大塚

調 査 員 渋谷孝雄

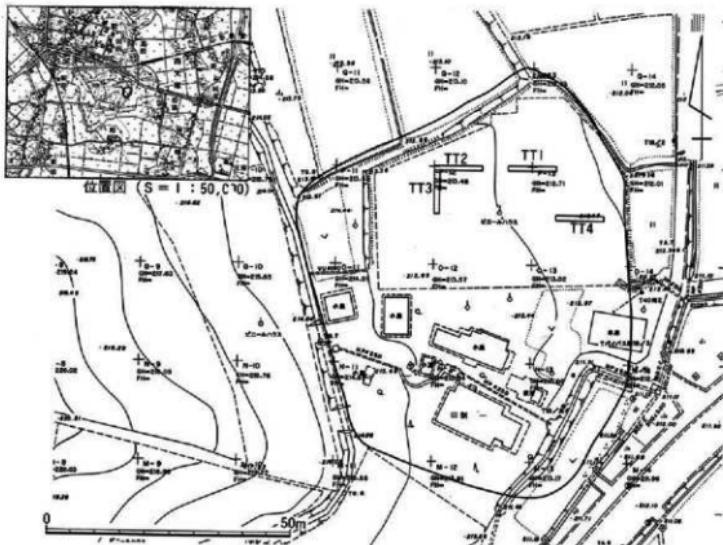
調 査 期 日 平成9年6月16日

起 因 事 業 公立置賜総合病院整備事業

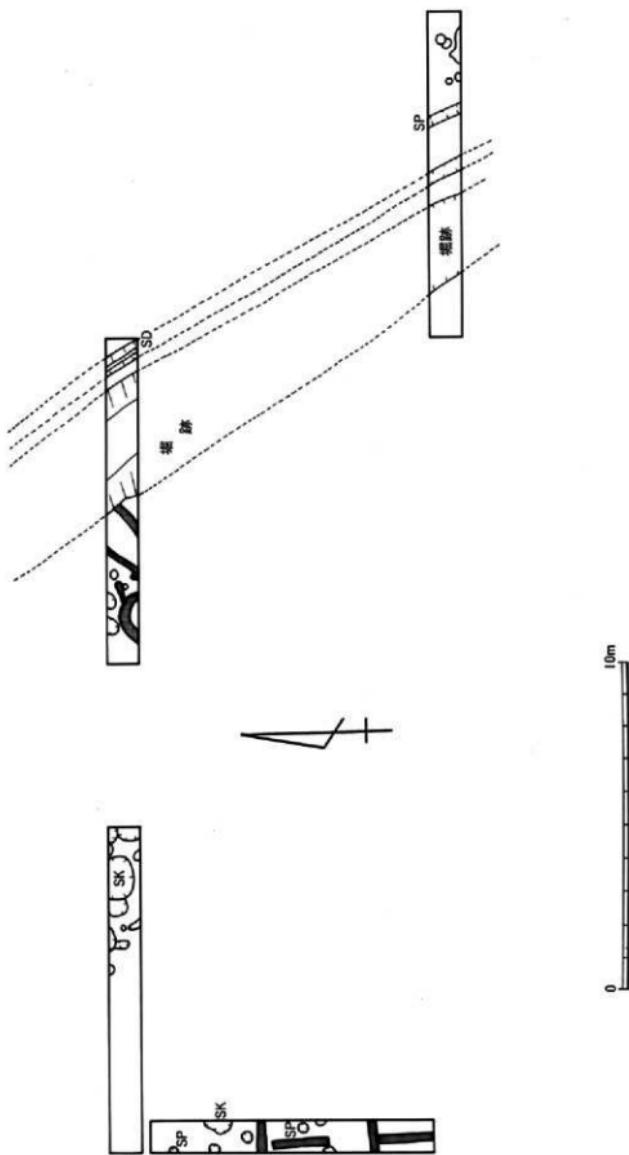
遺 跡 環 境 遺跡はJR米坂線今泉駅の南東1.3kmに位置し、丘陵斜面の端部に立地する。標高は214m前後を測り、地目は果樹園、宅地となっている。昨年度も部分的な試掘調査を行ったが、この部分では館に関係する遺構は確認できなかった。遺跡の主要部分が宅地となっていたこともあって、地権者の同意が得られず、事業実施年度の試掘調査となつたものである。

試 掘 状 況 手掘りのトレンチ調査を実施した。旧地権者の間込みで区画する堀の存在する可能性のある地区を選択し、T 1～4 の4本試掘溝を設定して遺構確認面までの掘り下げを行い、一部精査も行った。

調 査 結 果 T 1 で堀跡1条、これに平行して外側に存在する溝跡1条、柱穴等が検出され、T 2 の東半部で土坑、柱穴、T 3 で柱穴や落込み等を検出した。また、T 4 ではT 1～連続するとみられる堀跡や溝跡等を検出した。出土した遺物は近世の陶磁器で中世に遡る遺物は確認されなかった。この結果を受けて平成9年の9月から10月にかけて川西町教育委員会が記録保存のための緊急発掘調査を実施した。



第76図 田制館跡概要図



第77図 田制館検出遺構平面図



図版84 田制館跡（1）



図版85 田制館跡（2）

(36) 米沢城跡 (遺跡番号1216)

所 在 地 山形県米沢市広幡町、丸の内一丁目2の68他

調 査 員 B調査 名和達朗 渋谷孝雄

調 査 期 日 B調査 平成9年11月10日、12月8日

調 査 起 因 県立米沢工業高等学校校舎解体工事

遺 跡 環 境 米沢市街地のほぼ中央に位置する。国道121号線と主要地方道米沢・猪苗代線交差路の南西一帯が本丸、二の丸で、東西約600m・南北560m・面積336,000平米の広の規模であり、それを三の丸が区画する城構えである。享保年間絵図では学校敷地は、ほぼ二の丸区域に入ると考えられる。標高は、250m前後である。

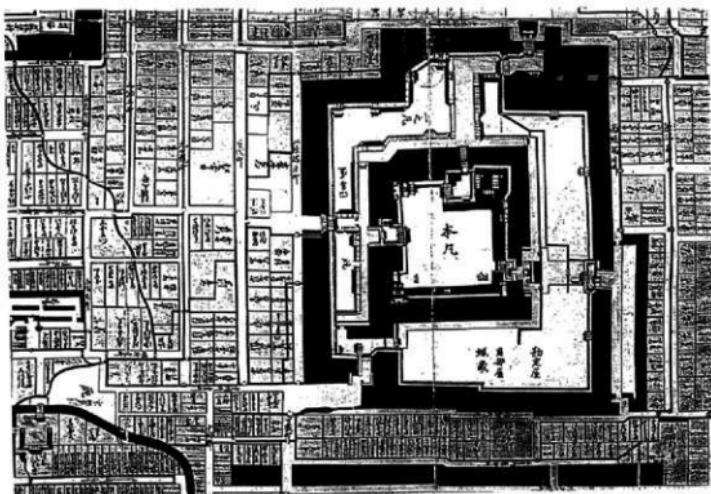
試 捜 状 況 事業区内について、絵図を参考に堀跡の広がりと方向性を基に、15ヶ所の地点にトレンチを入れ、重複使用で確認調査を行った。

調 査 結 果 各トレンチについて遺構及び堀跡ないし池跡の覆土が確認され、校舎基礎部分以外は遺構の遺存が確認できた。T 1~13までの調査結果を総合すると、敷地北東~中央南側にかけて堀跡を想定する溝跡の広がりがみとめられた。T 1、10、12は絵図の堀跡方向に概ね一致するが、T 5~2・3、6では確認できず、一方T 2では絵図にはない堀跡ないし池跡と考えられる遺構が確認された。絵図では学校敷地は本丸の南東に位置し、その大半が堀跡区域となっているが、今回の試掘結果は、その配置状況とは必ずしも一致しないことが明らかになった。

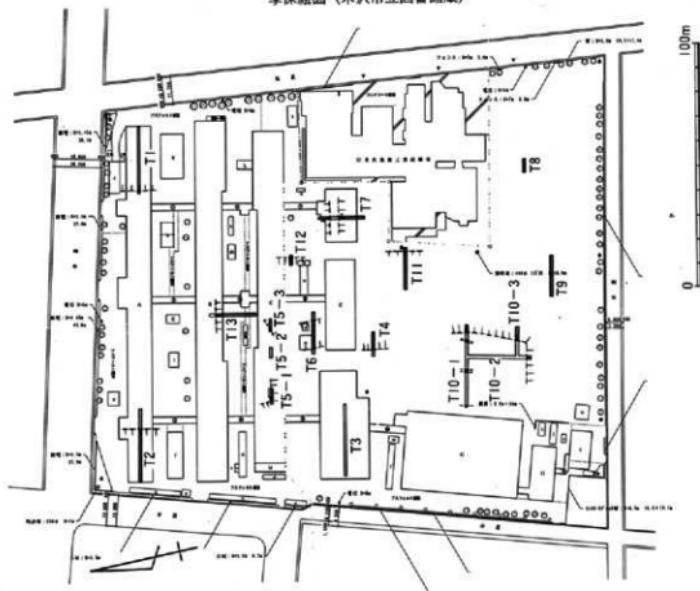
敷地中央区域北側~南西は、平坦な地山面の広がる範囲で柱穴、土壤、溝跡の遺構群の分布がみとめられ、堀跡に区画された城内遺構区域と考えられる。遺構確認面は、深さ70~130cmを測る。



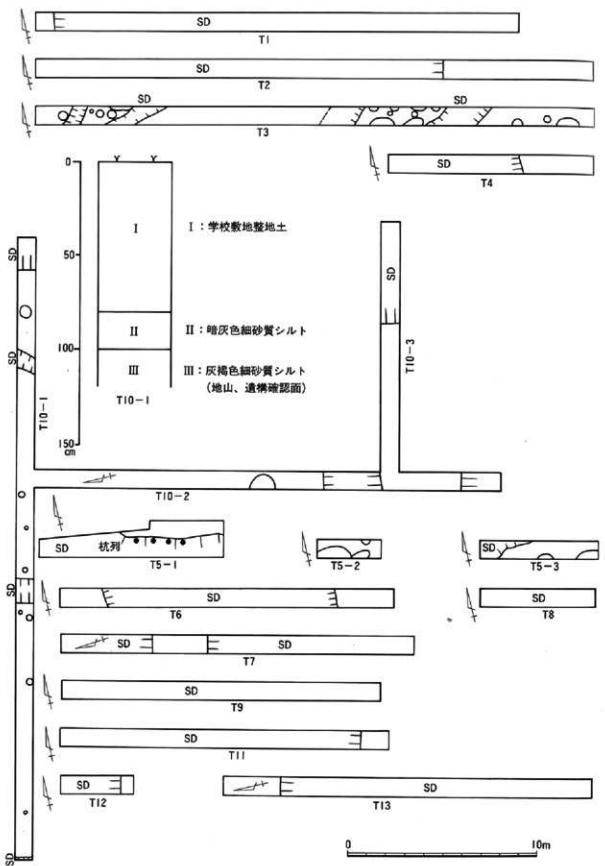
第78図 米沢城跡位置図



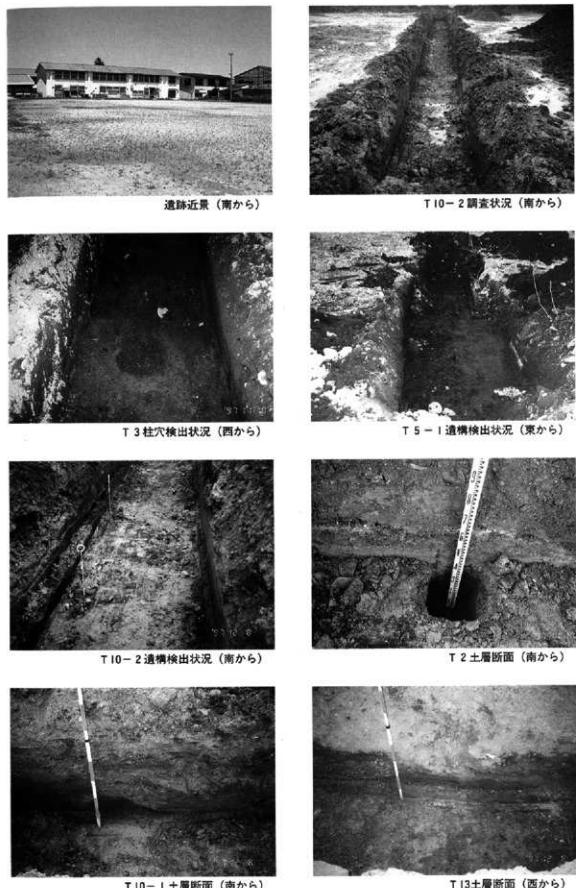
享保園（米沢市立図書館庭）



第79図 米沢城跡概要図



第80図 米沢城跡平面図・断面略図



図版86 米沢城跡

(37) 荒谷原遺跡山王地区 (昭和58年度登録)

所 在 地 山形県天童市大字芳賀字山王

調 査 員 渋谷季雄

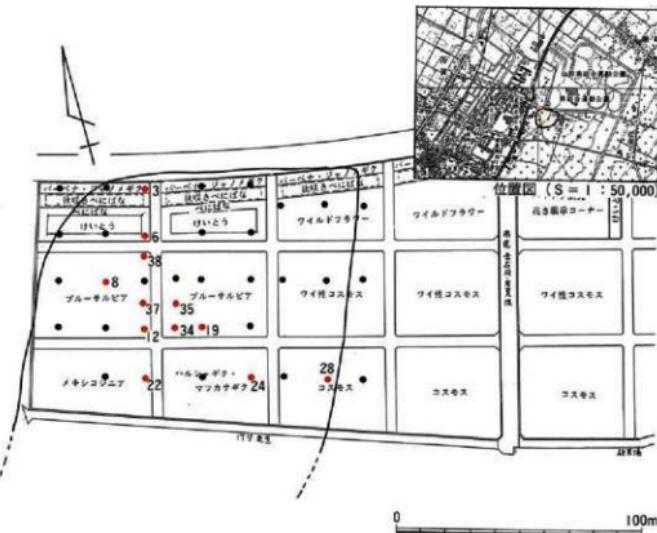
調 査 期 日 平成9年11月4・5日

起 因 事 業 総合交流拠点施設整備事業

遺 蹤 環 境 遺跡は山形県総合運動公園に南接し、立谷川扇状地に立地する。標高123m前後を測り、平成4年度から山形県が經營する花き園として利用されている。昭和58年の山形県総合運動公園の建設に伴う遺跡詳細分布調査で発見・登録された遺跡で公園用地内の造成に伴う荒谷原遺跡群の発掘調査は昭和59年度に実施されたが、本地区的公園用地内は事前の試掘調査で分布状況が希薄であることから本調査対象とはならなかった。

試 掘 状 況  $1 \times 1\text{ m}$  の試掘坑を10~20mおきに試掘する坪掘り方式を取った。試掘坑は38箇所設定した。

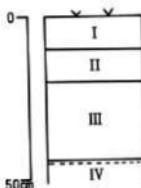
調 査 結 果 試掘地区の中央部の12箇所で遺構や遺物が検出された。TP 3、12で竪穴住居跡とみられる土色変化が確認され、TP 6、19、28、34、37、38の各試掘坑で柱穴を検出した。確認面までの深さは44cmから63cmとなっている。出土した遺物は平安時代の須恵器、土師器、赤焼土器の破片であるがその量は少ない。遺物の散布状況から判断しても花き園敷地内での遺跡の東西の広がりは図示した範囲を越えないことは確実である。



第81図 荒谷原遺跡山王地区概要図



遺跡近景（南西から）



I : 噴褐色シルト  
II : 噴褐色シルト(Ⅰより暗い)  
III : 黒褐色シルト  
IV : 黄褐色粘土質シルト

TP 3 土層柱状図



TP 3 土層断面 (南から)



TP 37 柱穴検出状況 (東から)



出土遺物

図版87 荒谷原遺跡山王地区 (I)

### 3 記録保存調査、立会い調査の概要

#### (1) 家際遺跡（平成7年度登録）

所在 地 山形県酒田市大字保岡字家際

調査 員 長橋 至

調査 期 日 平成9年8月4日 8月19日～21日 9月16日～18日

起因 事業 県営ほ場整備事業（西荒瀬地区）

遺跡 環境 酒田市街地から北東へ約3km、京屋地区西側の沖積平野の水田中に立地する。

現地表の標高は3～3.2m、遺構確認面での標高は約2.5mを測る。北側3kmに日向川が西流する。周辺には、北側500mから1kmに平安時代の百野遺跡・蛙橋遺跡（平成7年度登録）

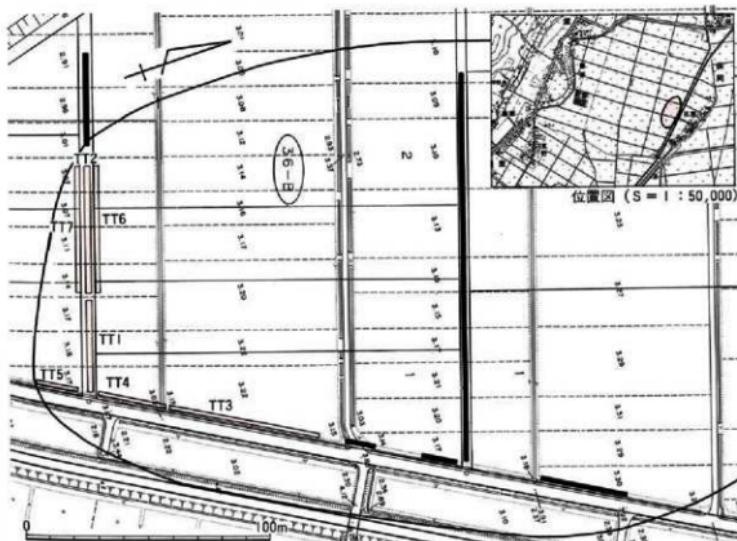
が、南東700mには中谷地遺跡（平成元年度登録）が所在している。現在の海岸線からは約3km内陸部に入る位置となる。

調査 状況 遺跡範囲内で、ほ場整備により遺物包含層・遺構面に掘削が及ぶ部分について立会調査を実施した。水路・パイプライン敷設部分・農道路盤入替え部分を対象とした。工事工程により、調査は3期に分けて実施した。

調査 結果 遺跡は南西部で良好な遺存状況を呈した。特に遺跡南部のTT2・6・7域で集中して検出された。この地区的主な遺構の概要は以下のとおりである。TT2～SK1は径130cm、深さ25cmの土壙で遺物は出土しなかった。SD4は幅30cm、深さ20cm程の溝跡で赤焼土器の壺・高台付坏片を主体に1袋出土、SK8は長径130・短径110cmの略円形の土壙で覆土からはヘラ切りの須恵器坏片、回転糸切りの赤焼土器坏片の他、赤焼土器体部片等が1袋出土した。SK15は径約100cm、深さ50cm、遺物は糸切りの須恵器坏片の他、赤焼土器壺（刷毛目・タタキ等）、須恵器体部片などが1袋出土した（図38・35）。SK16は径90cm、深さ20cm、赤焼土器坏片、壺片、鍋口縁部片等が2袋出土した。SD17は幅50cm、深さ12cm程の溝跡で、図示した遺物（12・22）の他約1袋出土している。SK21は長径100・短径70cm、深さ18cmの小土壙で遺物は内面黒色処理の土器部片3点、体部下半タタキの壺片、須恵器体部片等約3袋が出土した（内図示7・13・32・34）。

TT7～SK60は径70cm、深さ10cmの小土壙で覆土は1層、回転糸切りの須恵器坏片が出土、SD62は長さ210cm、幅30cm、深さ10cmの短い溝状遺構で図示した高台付坏（3）の他、赤焼土器の体部片や赤褐色の須恵器（底部回転糸切り）等が1袋出土している。SK63は長径90cm、短径70cm、深さ12cmの小土壙で填底に3cm程の炭化層が認められる。遺物は赤焼土器壺片等が数片出土した。SK65は調査区の関係で3分の1程の検出にとどまるが、推定径140cmを測る深さ16cmの土壙である。遺物は赤焼土器の壺片等数点が出土した。SK67も2分の1の検出となったが、一辺170cm、深さ22cmのやや大形の土壙で、覆土中より赤焼土器坏（図10）の他、赤焼土器壺片等約2袋が出土している。SD66では赤焼土器鍋（図39）が出土した。SK72は径140cm程の円形の土壙で、深さは18cmを測る。赤焼土器壺（図6）が出土した。TT4～検出した遺構は第85図に示した。各遺構から赤焼土器・須恵器片数点出土した。SD103出土遺物について図示（8・9）した。

遺物は、全体で整理箱10箱ほど出土した。今回は特徴的な遺物を選択し図示（第86・87図）した。須恵器は口徑に比し底径が大きく底部が回転ヘラ切りのもの（1・2）、ヘラ切りの高台付坏（3）、糸切りの高台付坏（4）、底径の大きな回転糸切りの（5）、やや底径の小さい（6）、小さい底径から直線的に口縁部に立ち上がる（7）などに大別される。赤焼土器は、法量がやや大きく、底部（糸切り）から直線的に立ち上がる（8・9）、やや小ぶりで口縁部が外反気味の（10・11・17）、底径に比し器高の低い（12）に分けられる。なお、坏では内面黒色された土器がS K21・69で数点出土している。墨書き土器（4・14～18）については、判読可能なものを図示した。蓋はつまみが擬宝珠形の21、つまみ部遺存の22を図示した。皿は、23の1点のみ図示。須恵器壺・甕、赤焼土器の壺・壠については、器形が判然とするものは少ない。今回の報告では大まかな時期を設定し、併せて、遺跡の性格を予見するにとどめる。上記の特徴から、古い時期のものとして1・2・21などは9世紀初頭（第1四半期）、5・6・8・9や赤焼土器の他の器種に代表される9世紀前葉～中葉の時期が想定される。その他、9世紀後半の要素の土器も散見される。土器から本遺跡の性格を予見すると、庄内平野北東部のこの時期については以前から出羽国府たる「井口国府」、「高敵の地」、「城輪柵跡」の関連が問題とされている。本遺跡は、極めて限定された区域の調査のためこの問題に言及する資料は乏しいが、井口国府成立から高敵の地への移転までの時期との整合性、標高3m以下（検出面）という遺跡の立地条件、城輪柵跡との位置関等の観点から注目しておくべき遺跡といえよう。

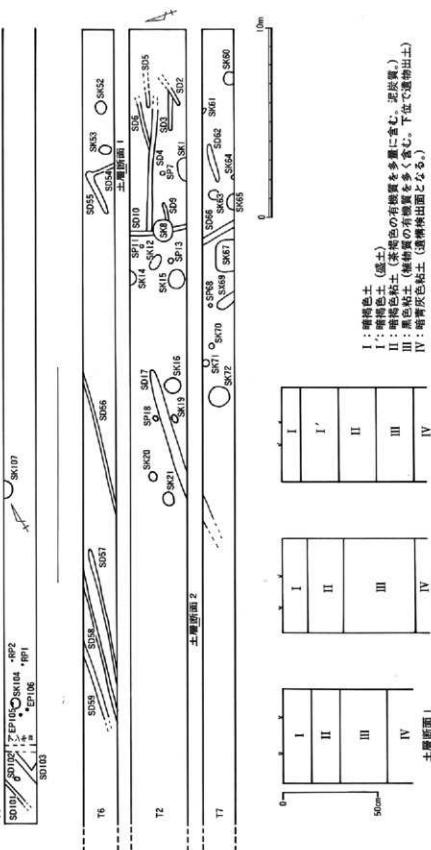


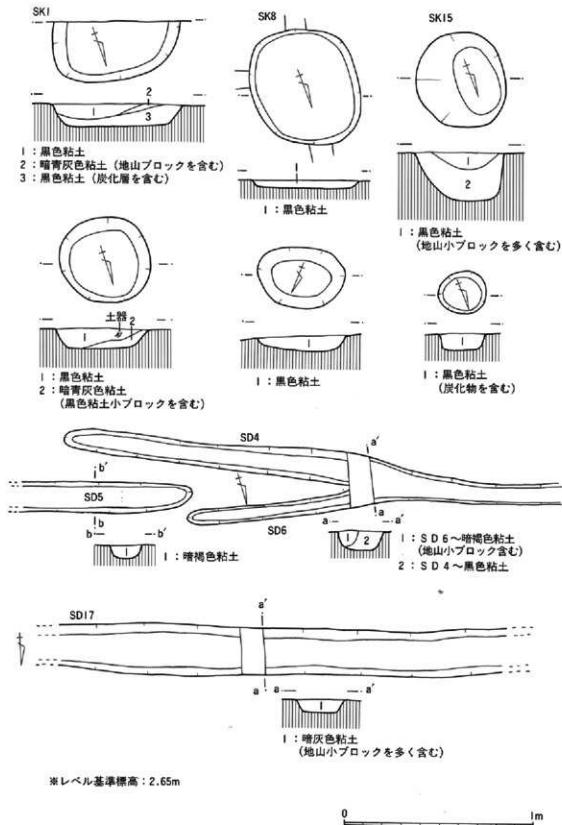
第82図 家賀遺跡概要図

家際遺跡遺物観察表

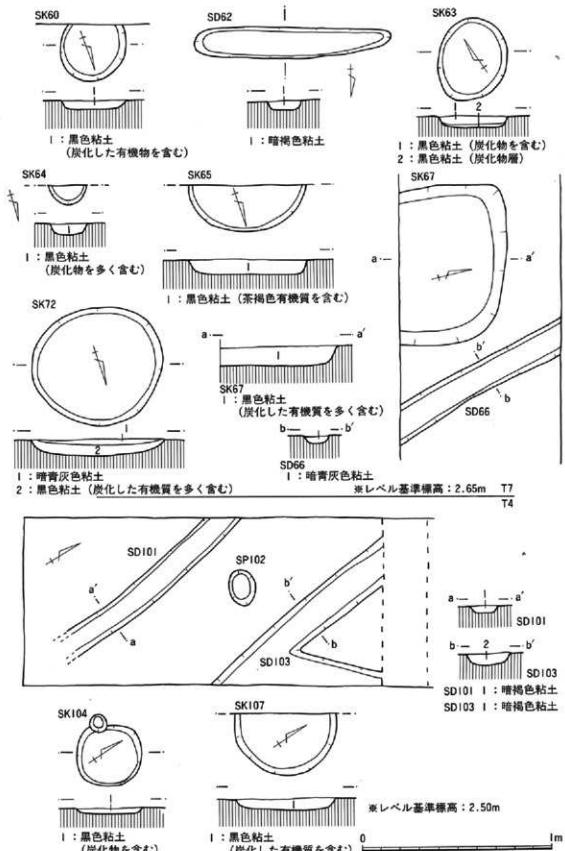
| 埠回 | 番号 | 種別   | 器種   | 口径  | 底深 | 高さ   | 底部切端 | 出土地点 |     | 備考            |        |
|----|----|------|------|-----|----|------|------|------|-----|---------------|--------|
|    |    |      |      |     |    |      |      | 試掘   | 遺構等 |               |        |
| 86 | 1  | 須恵器  | 壺    | 136 | 80 | 36   | 圓軸ヘラ | 6    | 包含層 |               |        |
|    | 2  | 須恵器  | 壺    | 136 | 90 | 35   | 圓軸ヘラ | 2    | 包含層 | 底部墨痕          |        |
|    | 3  | 須恵器  | 高台付杯 | 138 | 80 | 36   | 圓軸余  | 7    | 62  |               |        |
|    | 4  | 須恵器  | 高台付壺 | 124 | 68 | 47   | 圓軸余  | 7    | 包含層 | 底部墨書(水)、内面漆付有 |        |
|    | 5  | 須恵器  | 壺    | 134 | 78 | 41   | 圓軸余  | 7    | 包含層 |               |        |
|    | 6  | 須恵器  | 壺    | 136 | 52 | 44   | 圓軸余  | 7    | 72  |               |        |
|    | 7  | 須恵器  | 壺    | 134 | 52 | 47   | 圓軸余  | 2    | 21  | 赤褐色           |        |
|    | 8  | 赤燒土器 | 壺    | 140 | 61 | 59   | 圓軸余  | 3    | 103 | 内面漆痕          |        |
|    | 9  | 赤燒土器 | 壺    | 156 | 60 | 59   | 圓軸余  | 3    | 103 |               |        |
|    | 10 | 赤燒土器 | 壺    | 128 | 50 | 51   | 圓軸余  | 7    | 67  |               |        |
|    | 11 | 赤燒土器 | 壺    | 118 | 50 | 50   | 圓軸余  | 2    | 包含層 |               |        |
|    | 12 | 赤燒土器 | 壺    | 130 | 54 | 46   | 圓軸余  | 2    | 17  |               |        |
|    | 13 | 赤燒土器 | 壺    | 128 | 52 | 49   | 圓軸余  | 2    | 21  |               |        |
|    | 14 | 須恵器  | 壺    | -   | 50 | • 10 | 圓軸余  | 7    | 包含層 | 底部墨書(特)?      |        |
|    | 15 | 須恵器  | 壺    | -   | 60 | • 21 | 圓軸余  | 2    | 包含層 | 底部墨書(特)?      |        |
|    | 16 | 赤燒土器 | 壺    | -   | 48 | • 33 | 圓軸余  | 3    | 包含層 | 底部墨書(中)       |        |
|    | 17 | 赤燒土器 | 壺    | 122 | 48 | 50   | 圓軸余  | 2    | 包含層 | 体部墨書(金)?      |        |
|    | 18 | 赤燒土器 | 壺    | 126 | 46 | 48   | 圓軸余  | 7    | 70  | 体部墨書(大)       |        |
|    | 19 | 須恵器  | 壺    | -   | -  | -    | 圓軸余  | 7    | 包含層 | 底部墨書(古)?      |        |
|    | 20 | 須恵器  | 壺    | -   | -  | -    | 圓軸余  | 2    | 包含層 | 体部墨書(古)?      |        |
|    | 21 | 須恵器  | 蓋    | 143 | -  | • 27 | 八ラ   | 4    | 包含層 | つまみ部~休部       |        |
|    | 22 | 須恵器  | 蓋    | -   | 69 | -    | • 17 | 八ラ   | 2   | 17            | つまみ部残存 |
|    | 23 | 須恵器  | 皿    | 120 | 60 | 26   | 圓軸余  | 2    | 包含層 |               |        |
|    | 24 | 須恵器  | 蓋    | 130 | -  | • 87 | -    | 2    | 包含層 |               |        |
|    | 25 | 須恵器  | 蓋    | -   | -  | • 68 | -    | 4    | 包含層 |               |        |
|    | 26 | 須恵器  | 壺    | -   | -  | • 16 | -    | 4    | 包含層 |               |        |
|    | 27 | 須恵器  | 壺    | -   | -  | • 10 | -    | 2    | 14  | 頸部片           |        |
|    | 28 | 須恵器  | 蓋    | -   | 54 | • 67 | 圓軸余  | 4    | 包含層 | R P 2         |        |
|    | 29 | 須恵器  | 蓋    | -   | 82 | • 19 | 圓軸余  | 4    | 包含層 | R P 1         |        |
|    | 30 | 赤燒土器 | 壺    | 140 | -  | • 92 | -    | 2    | 15  |               |        |
| 87 | 31 | 土師器  | 甕    | 209 | -  | • 69 | -    | 2    | 包含層 | 内外面刷毛目        |        |
|    | 32 | 赤燒土器 | 甕    | 271 | -  | • 13 | -    | 2    | 21  |               |        |
|    | 33 | 赤燒土器 | 甕    | 200 | -  | • 10 | -    | 7    | 68  |               |        |
|    | 34 | 赤燒土器 | 甕    | 175 | -  | • 10 | -    | 2    | 21  |               |        |
|    | 35 | 赤燒土器 | 甕    | 223 | -  | • 77 | -    | 2    | 15  |               |        |
|    | 36 | 赤燒土器 | 甕    | -   | 31 | • 23 | -    | 2    | 包含層 | 漆痕残存          |        |
|    | 37 | 赤燒土器 | 壠    | -   | -  | • 40 | -    | 2    | 包含層 |               |        |
|    | 38 | 赤燒土器 | 壠    | -   | -  | • 34 | -    | 2    | 包含層 |               |        |
|    | 39 | 赤燒土器 | 壠    | -   | -  | 63   | -    | 7    | 65  |               |        |
|    | 40 | 赤燒土器 | 壠    | 440 | -  | • 70 | -    | 7    | 包含層 | 内面タキ          |        |

・現存幅 (単位: ミリメートル)

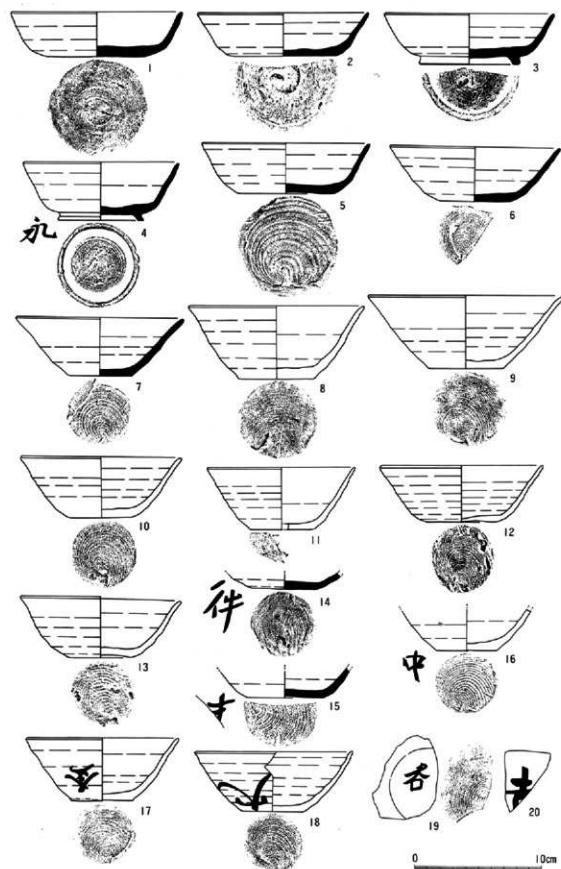




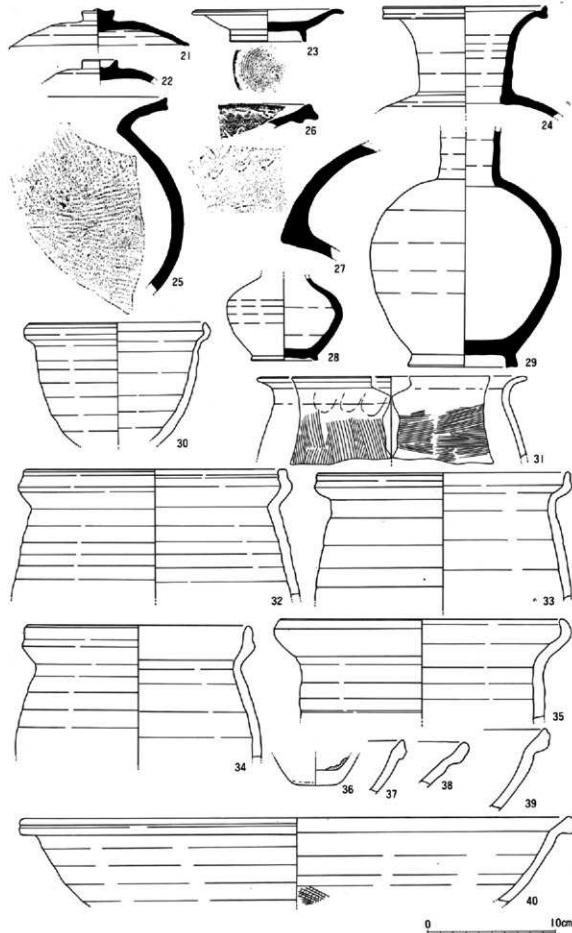
第84図 家原遺跡T2検出造構平面・断面図



第85図 家原遺跡T7、T4検出造構平面・断面図



第86図 家際遺跡出土遺物実測図（1）



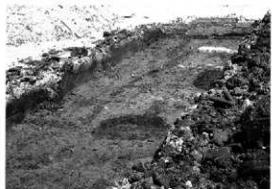
第87図 家際遺跡出土遺物実測図（2）



遺跡近景（TT1、東から）



TT2 完掘状況（西から）



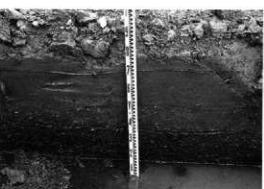
TT2 東側遺構検出状況（西から）



TT2 西側完掘状況（西から）



TT2 西側完掘状況（東から）



TT2 土層断面（北から）



TT2 SK1 土層断面（北から）

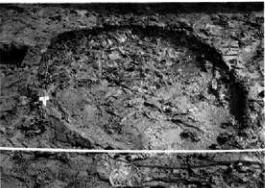


TT2 SD4.6（西から）

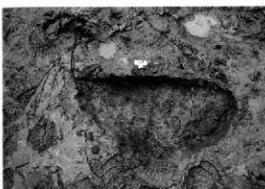
図版88 家際遺跡（1）



TT2 SK8 土層断面（東から）



TT2 SK8 完掘状況（東から）



TT2 SK12 土層断面（北から）



TT2 SK13 土層断面（北から）



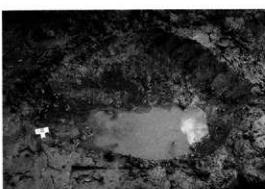
TT2 SK15 土層断面（北から）



TT2 SK15 完掘状況（北から）

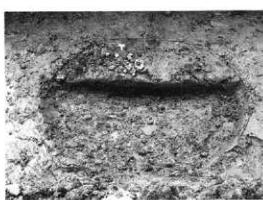
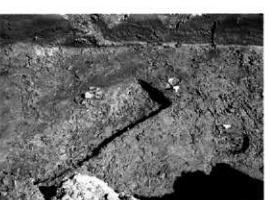
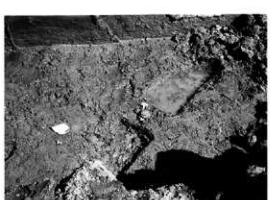


TT2 SK16 土層断面（北から）



TT2 SK16 完掘状況（北から）

図版89 家際遺跡（2）



図版90 家際遺跡（3）

図版91 家際遺跡（4）



86-1



86-2



86-3



86-4



86-5



86-4 (たて)



86-10



86-12



86-13



86-14



86-15



86-16



86-17



86-18



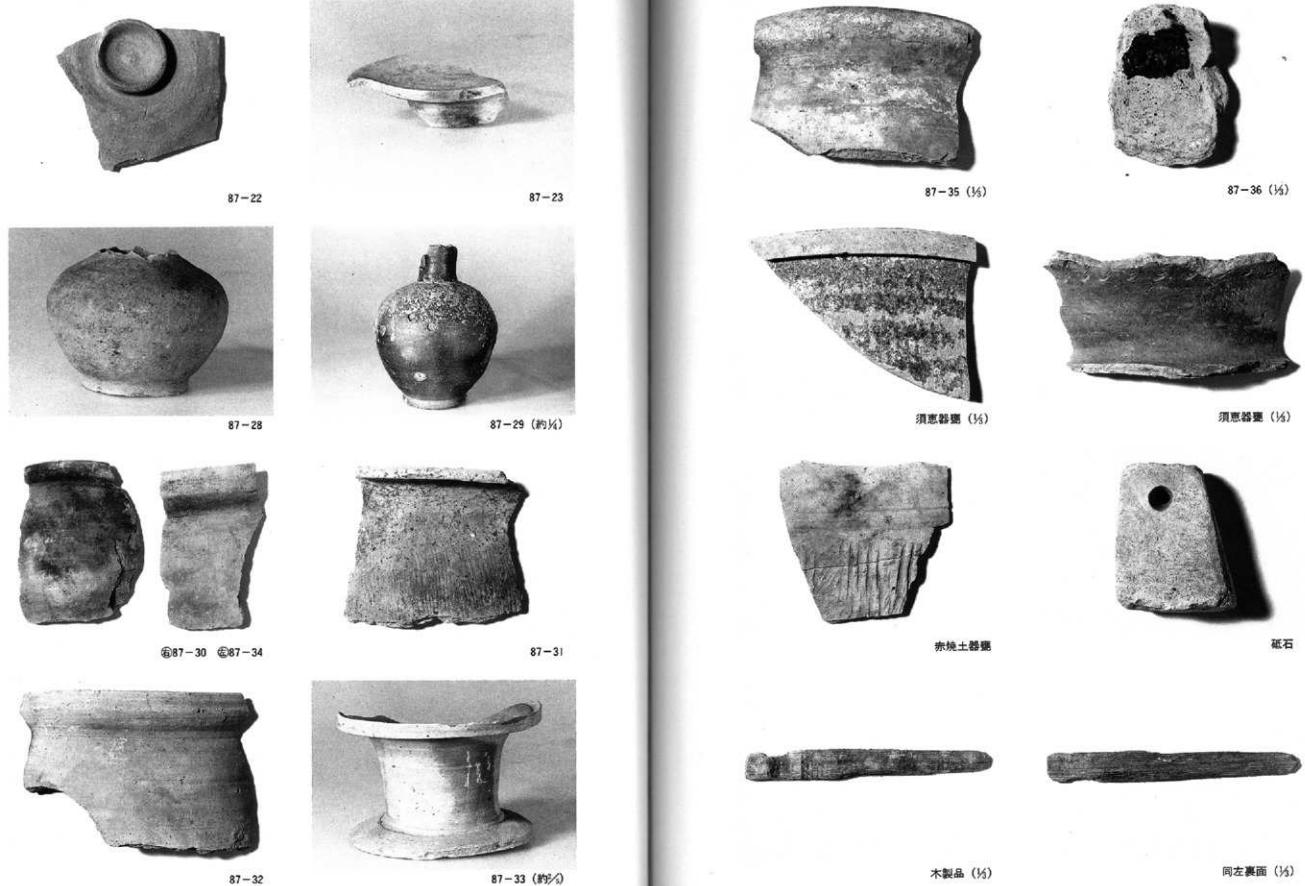
86-19



86-20

図版92 家際遺跡(5)

図版93 家際遺跡(6)



圖版94 家際遺跡（7）

圖版95 家際遺跡（8）

#### (2) 飯沢館跡 (平成6年度登録)

所 在 地 山形県長井市大字成田字館の内

调 查 员 渡谷孝雄

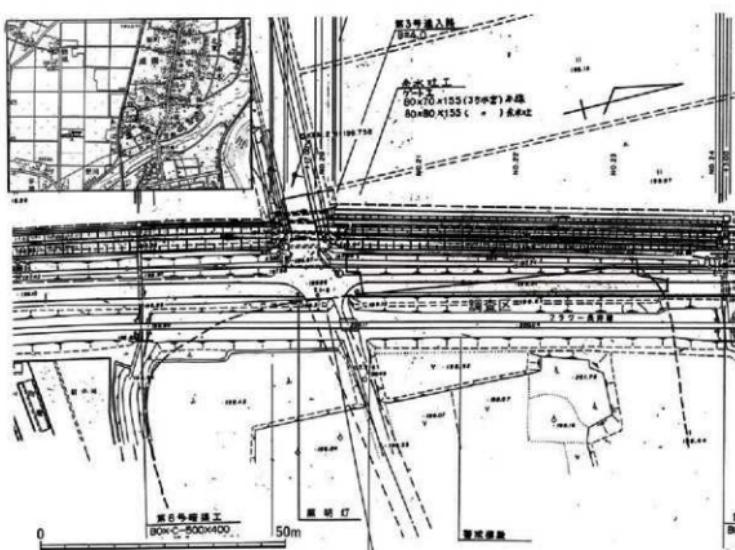
調査期日 発掘調査 平成9年6月10~13日(4日間)

#### 起因事業 よろきと農道緊急整備事業（成田西部地区）

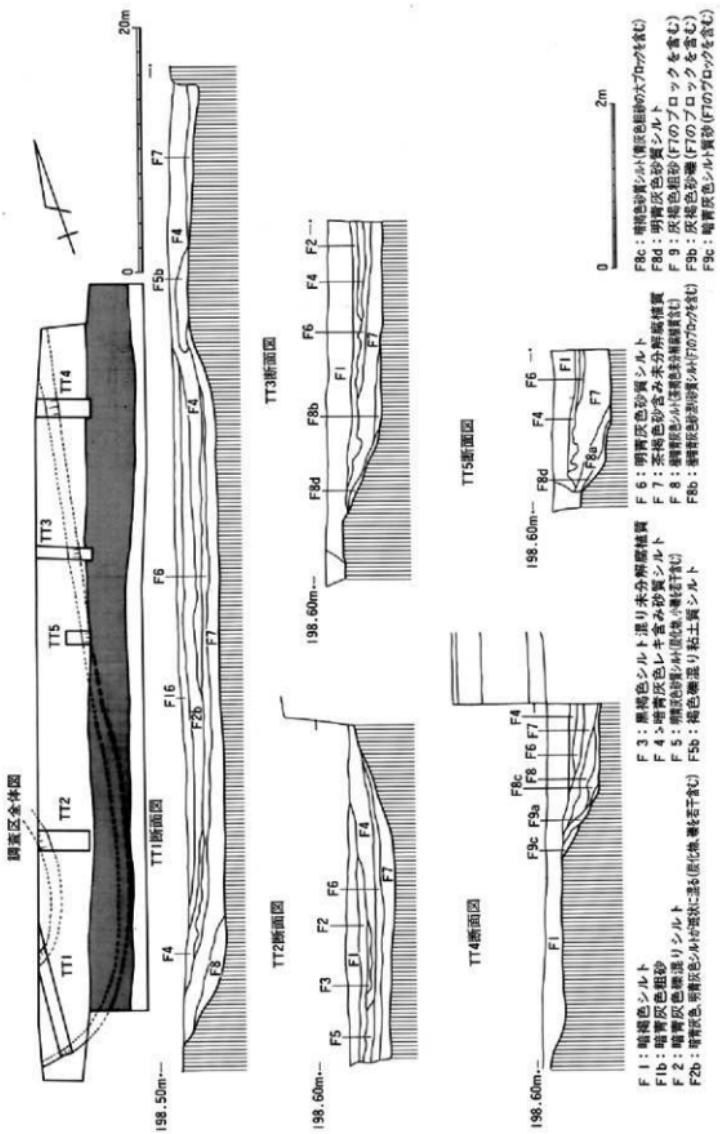
**遺跡環境** 山形鉄道フラー長井線羽前成田駅の南方900mに位置する。標高は198m前後で地目は宅地、畠地、水田、鉄道用地、道路用地となっている。飯沢館は鮎貝氏の家臣である飯沢氏の居館で5反4畝3歩の面積を持つ。長井線の建設に伴い畠の一部が破壊され、その後も土壁は切り崩されて現在は北東隅に残存するだけとなっている。

**調査状況** 今回の調査対象区は館の西辺の堀の一部が入るものと考えられたため、現道部分を含めて、重機で表土を除去し、面削りで堀跡の確認を行った。工事は堀を確認した面以下には及ばないため、堀の掘り下げはTT 1～5 のトレンチ調査とした。

**調査結果** 西辺の堀跡は当初予測より西側に広がっており、昭和40年代の土地改良事業の排水路設置で北西隅が既に破壊されていた。また、TT1、TT2で一旦立ち上がる様相を示しており、線路東の堀跡の痕跡から判断すると2重の堀となっていたものと考えることができる。外側の堀の幅は上幅で10m前後となり、確認面からの深さは50cm前後となる。堀の堆積土はグライ化したシルトないしは砂質シルトや未分解腐植質となっていた。



第88図 飯沢館跡概要図



第89図 飯沢館跡断面図



飯沢館跡近景（西から）



調査区近景（南から）



調査区面整理終了（南から）



堀跡・北西隅棱出状況（西から）



堀跡・北西隅棱出状況（北西から）



堀跡中世陶器出土状況（南から）



T 1 土層断面（北西から）



T 1 北部立上り状況（西から）



T 1 南部立上り状況（西から）



T 2 土層断面（西南から）



T 3 土層断面（西南から）



T 3 東部土層断面（南から）



T 3 底面漆器出土状況（北から）



T 4 土層断面（南から）



出土遺物（中世陶器）



出土遺物（漆器）(1)

図版95 飯沢館跡（1）

図版97 飯沢館跡（2）

(3) 飯沢北館跡 (平成6年度登録)

所 在 地 山形県長井市大字成田字北館

調 査 員 渋谷孝雄

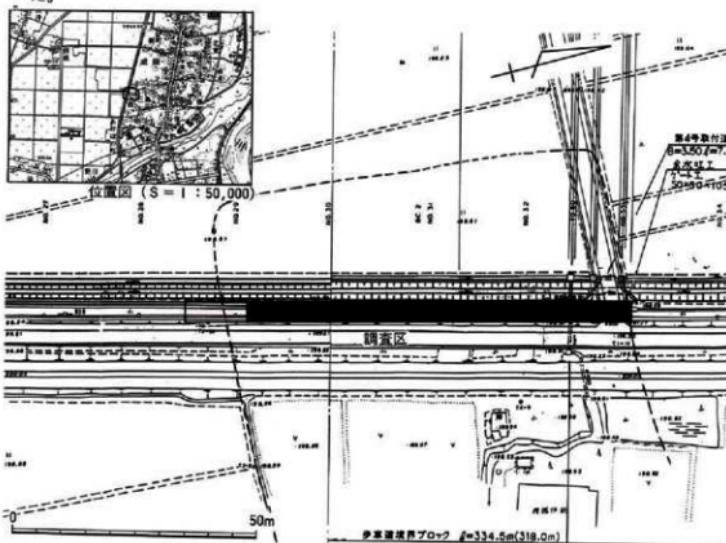
調 査 期 日 発掘調査 平成9年2月18~20日 (3日間)

起 因 事 業 ふるさと農道緊急整備事業 (成田西部地区)

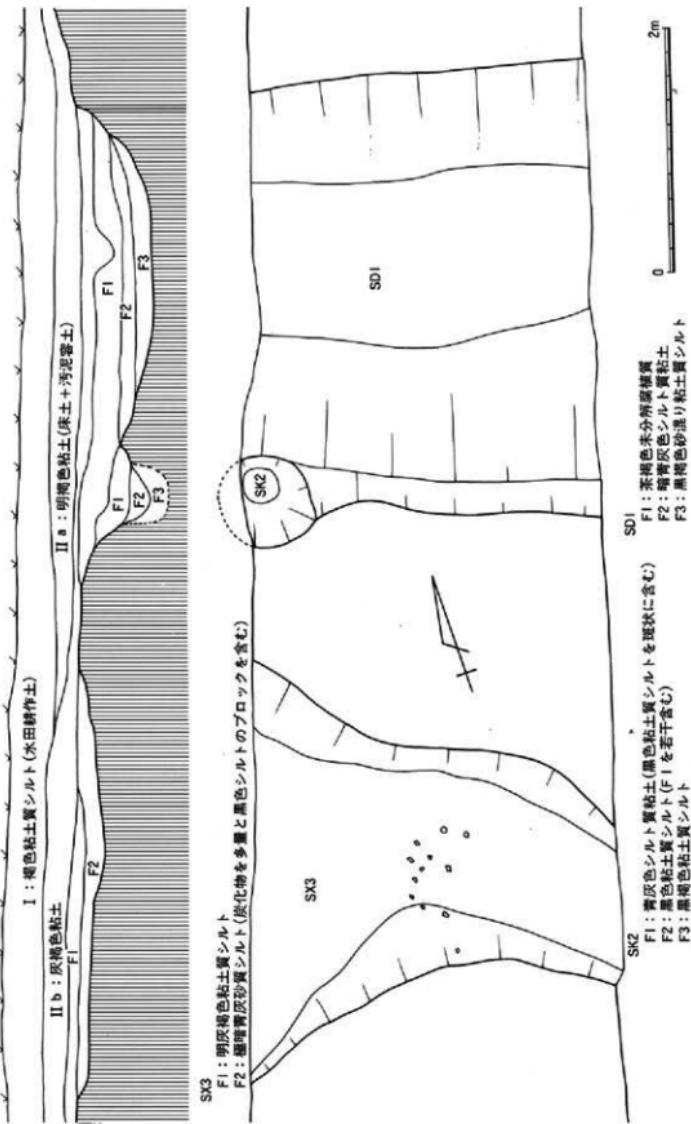
遺 跡 環 境 山形鉄道フラーー長井線羽前成田駅の南方700m、飯沢館の北200mに位置する。標高は199m前後で地目は宅地、畑地、水田、鉄道用地、道路用地となっている。飯沢北館は飯沢氏の庶流が天文年間の初期に独立して築いたといわれている。地籍図によると4反2畝の面積を持つ方形館である。館の中央部に長井線が建設されている。長井線の東側に一部土塁の痕跡が残っている。

調 査 状 況 今回の調査対象区は、館の内部にあたり、北辺、南辺の堀跡のほか、建物跡などの遺構が存在する可能性もあったため、拡幅部分の表土を重機で除去し、面削りで遺構の有無を検出する方法を取った。なお、現道部分の工事は遺構確認面より上位で終るため調査を実施していない。

調 査 結 果 北辺の堀に当たる部分は過去の工事で破壊されており、館の内部でも遺構は確認できなかった。しかし、上幅で3.6m、確認面からの深さ60cmを測る南辺の堀と考えられる遺構 (SD 1) が検出され、さらにこの南側に、平安時代の土器を含む浅い落込み (SX 3) も検出され、SD 1に切られる縄文時代後期前半の土坑 (SK 2) も検出された。



第90図 飯沢北館跡概要図



第91図 板沢北館跡検出遺構平面・断面図



調査区近景（北から）



推定北辺堀跡・付近擾乱部（北から）



南辺堀跡検出状況（南西から）



南辺堀跡土層断面（東から）

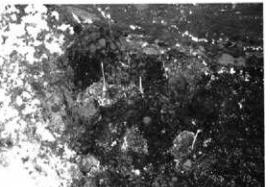


南辺堀跡調査状況（南東から）

図版98 飯沢北館跡（1）



南辺堀跡南部の縄文時代土坑検出状況（北東から）



縄文時代土坑土器出土状況（東から）



南辺堀跡土層断面（東から）



縄文時代土坑完掘・土層断面（東から）



出土遺物

図版99 飯沢北館跡（2）

(4) 古屋敷遺跡 (遺跡番号2,163)

所 在 地 山形県鶴岡市遊佐町大字吉出字古屋敷

調 査 員 渋谷孝雄

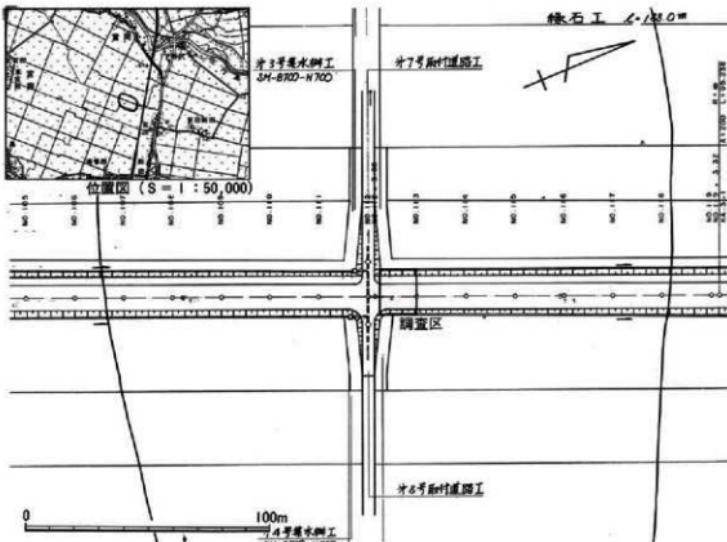
調査期日 発掘調査 平成9年10月8・9日 (2日間)

起因事業 国道345号線道路改築

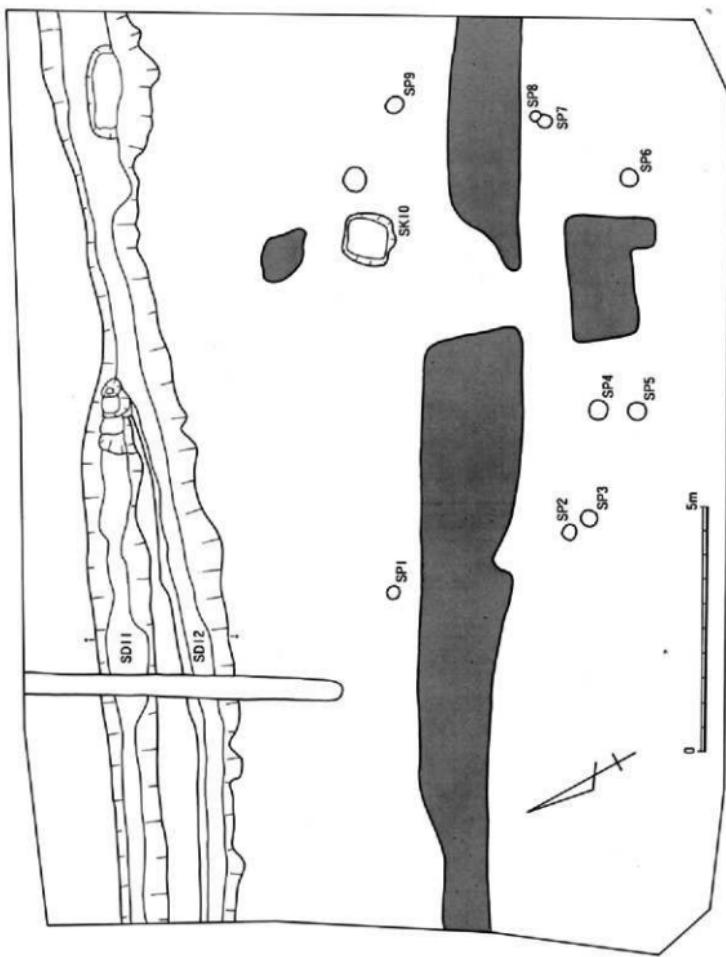
遺跡環境 JR羽越本線遊佐駅から北に約1.3kmに位置し、月光川と高瀬川に挟まれた沖積平野に立地する。地目は水田で標高は9mを測る。平成6年度に県営ほ場整備事業に伴い、今回の調査対象区の南側の農道等の発掘調査を行い、中世の堅穴や掘立柱建物跡が検出されている。

調査状況 今回の調査対象区は、昨年の試掘調査で絞り込んだ東西18m、南北15mの範囲でこの部分の表土を除去した後に、面削りで遺構の検出作業を行い、検出した遺構と記録を行った。

調査結果 土坑1基、溝跡2条、小規模な掘り方と考えられるピットを9基を検出した。SK10は東西、南北とも約1mを測る方形プランの土坑で確認面からの深さは85cmを測る。覆土は9層に分かれ、9層から漆器、箸、板状の木製品、珠洲系の中世陶器等が出土した。SD11、12は東西の走行をもつ溝跡で12が11を切る。11は中世、12は近、現代の所産である。9基検出されたピットはいずれも小規模である。平成6年度の調査で今回の調査区に掘立柱建物跡の柱列が伸びているものと考えられたが、その存在は確認できなかった。



第92図 古屋敷遺跡概要図



第93図 古屋敷遺跡調査区遺構分布図

前述したようにSK9の最下層の9層から多数の木製品と中世陶器、金属製品が出土している。その主要なものを第95図及び図版104、105に示した。

陶器では天目茶碗1点、珠洲系中世陶器の摺鉢の体部破片が2点、壺の体部破片が1点出土した。天目茶碗は16世紀代の所産とみられる。

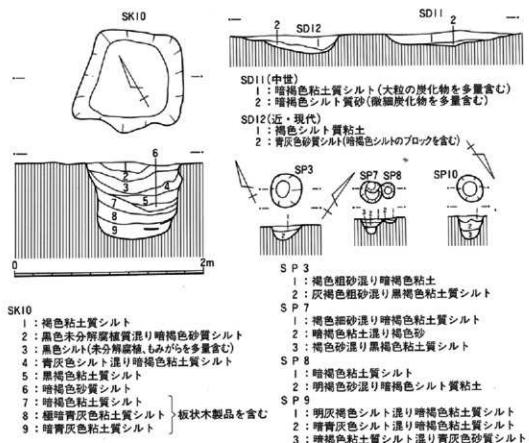
箸は破損品を含めると41点が出土した。そのうち完形品10点を図示した。長さ18~21cmで、径が5~7mmを測る。

漆器は図示した5点の他、数点の残片がある。11は口徑97mm、底径63mm、器高18mmを測る小形の皿で内外面とも黒漆の精巧な作りとなっている。12、13は内面赤漆、外側が黒漆の椀である。14は外面に黒漆が施されているが内面はクロロ痕の凹凸が明顯に残る椀である。15は内外面とも黒漆が施され、底面外に丸印の刻印が3個認められる。

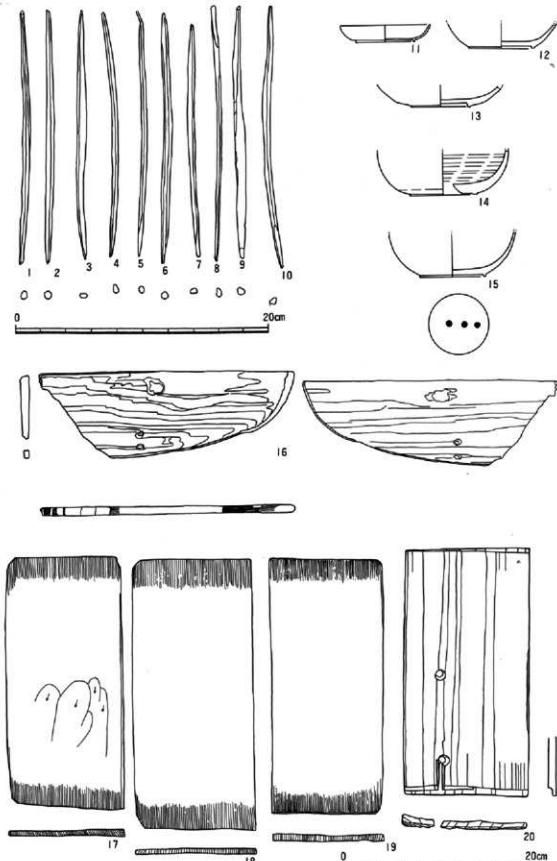
板状の木製品は13枚が出土した。16は楕円形の板状の木製品で2箇所に穿孔がある。17から19は長方形となる柵目の板状の木製品である。長さ26~28cm、幅12~13cm、厚さ7~8mmを測り、角を面取りしたものが多いため、20のように短辺の一端を2段に加工したものも存在する。

曲物の断片は直径13cm前後とみられ、桜皮で閉じた部分は3枚重ねとなっている。残存する高さは3cmである。

金属製品では長さ27cm前後、径4mm前後で先端が尖り、基部側の断面形が四角形となる用途不明のもの2点の他、図示しなかったが「咸元淳寶」が1点出土している。



第94図 古屋敷遺跡検出遺構平面・断面図



第95図 古畠敷遺跡出土遺物実測図



調査区近景（南西から）



遺構検出状況（北西から）

図版100 古屋敷遺跡（1）



東半部遺構検出状況（北西から）



S D II、I2等検出状況（北から）



S K 10他検出状況（北西から）



柱穴群検出状況（南西から）



S D II土層断面（東から）



S D I2土層断面（東から）



S D II、I2発掘（東から）



S D II、I2発掘（西から）

図版101 古屋敷遺跡（2）



SK 10 土層断面（南から）



SK 10 売掘（南から）



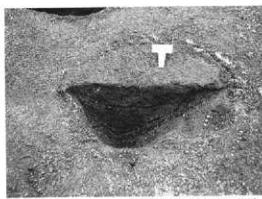
遺構精査状況（北西から）



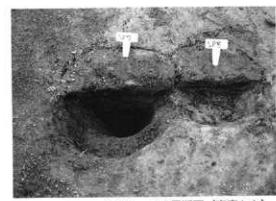
SP 1 土層断面（北から）



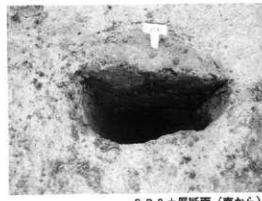
SP 2 土層断面（北から）



SP 3 土層断面（北から）



SP 7、8 土層断面（南東から）



SP 9 土層断面（南から）



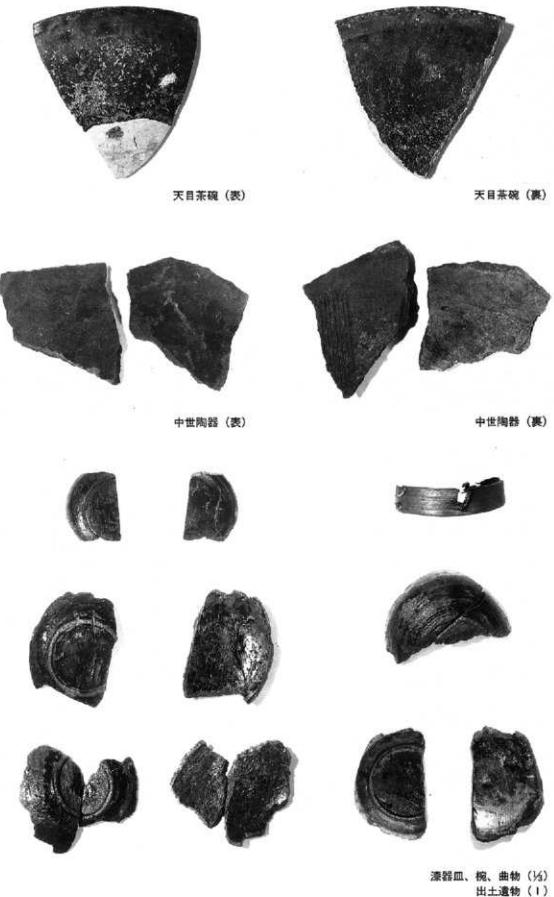
売掘状況（南西から）



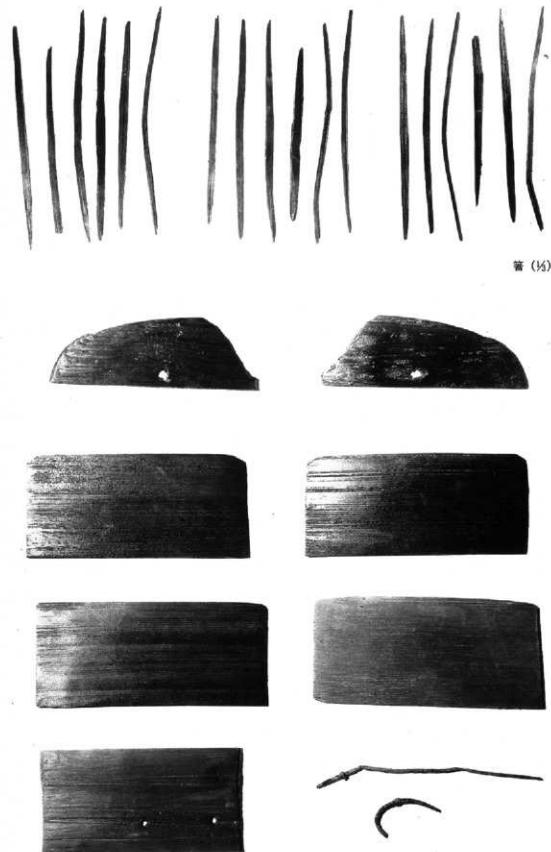
売掘状況（南東から）

図版102 古屋敷遺跡（3）

図版103 古屋敷遺跡（4）



圖版104 古窯跡遺跡（5）



圖版105 古窯跡遺跡（6）

(5) 欠の上遺跡 (遺跡番号1,920)

所 在 地 山形県東田川郡朝日村大字本郷字欠の上

調査員 渋谷孝雄

調査期日 発掘調査 平成9年5月27日～6月3日（6日間）

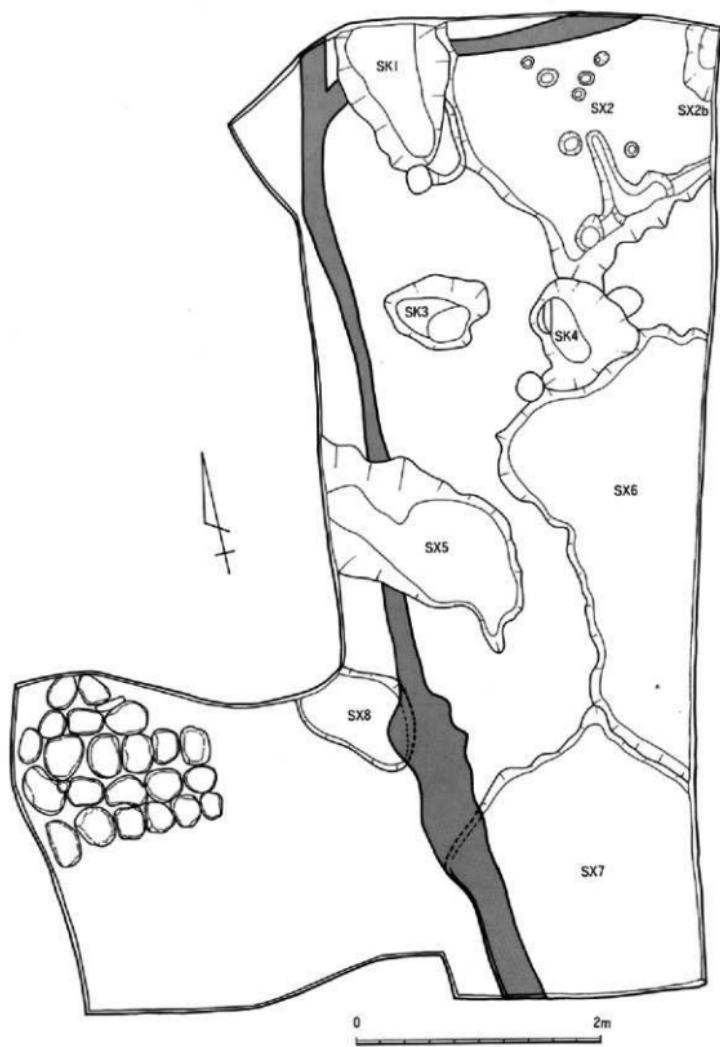
起因事業 主要地方道余目温泉線緊急地方道整備工事

遺跡環境 朝日町役場の南方約2.4kmに位置し、大鳥川左岸の段丘上に立地する。地目は宅地、畑地で標高は106mを測る。遺跡の南方約1.5kmには縄文時代中期末から晩期までの集落跡である砂川A遺跡があり、ほ場整備事業に伴って昭和56年に朝日村教育委員会によって発掘調査が行われている。

調査状況 今回の調査対象区は、事業地区内の内、昨年の試掘調査で包含層が残っていると判断された難波氏の家屋の跡で周囲は池等で既に破壊されていたため、対象区から除外した。調査区の大きさは東西約6.5m、南北16mで南側で $5 \times 5$ mの張り出し部を持つL字形の約130m<sup>2</sup>である。調査はこの部分の表土を除去した後に、包含層を掘り下げながら面削りで遺構の検出作業を行い、検出した遺構の精査と記録を行い、出土した遺物の取り上げを行った。

調査結果 縄文時代の土坑4基、落込み4基と、近世ないしは近代の敷石遺構1基を検出した。包含層であるII層と遺構内から整理箱で7箱分の縄文土器や石器などが出土した。また、敷石遺構内からは幕末以降の磁器等が出土した。





第97図 欠の上遺跡遺構分布図

以下に検出した遺構と遺物についてその概要を述べる。

#### SK 1

調査区の北西隅で検出したこの土坑の北部は池で破壊されている。南北200cm以上、東西は最大で140cmを測る楕円形プランの土坑で南東部が一段浅い。検出面からの底面までの深さは最大で68cmである。遺構内堆積土は3層に分かれ、1層下部から3層にかけて集中して土器が出土した。土器は後期前半の堀之内1式、中葉の加曾利B式、後葉の瘤付土器が同じ層位で出土している。他に磨石3点も出土している。

#### SK 2 b

調査区の北東隅でSX 2を切って検出された。南北90cm以上の恐らく楕円形プランであり、確認面からの深さは50cmである。圓文地文の土器片2点と、撫糸地文の土器片が1点、磨石1点が出土している。

#### SK 3

調査区の北部で検出された。東西130cm、南北90cmの不整楕円形のプランをもち、鍋底状の底面となる。確認面からの深さは35cmで堆積土は3層に分かれ。ボリ袋で1袋分の土器片が出土しているが、時期の判る土器はなかったが石鏃が出土している。

#### SK 4

SX 3の東側で検出された。SX 2、6を切っている。東西110cm、南北130cmの不整円形のプランで底面は平坦な長楕円形となる。確認面からの深さは40cmで堆積土は3層に分かれている。後期中葉の加曾利B式併行の土器が出土している。

#### SX 2

調査区の北東隅で検出した大きな落込み。堅穴住居の可能性も否定できないが床面が明瞭ではなく、底面で検出された溝やビットは、落込みを切っているため、周溝や柱穴にはならない。堆積土は2層に分かれ後期中葉の加曾利B式に併行する土器が出土している。なお、SX 2を切る溝の堆積土から壺の体部下半が出土している。

#### SX 5

調査区の中央西部で検出した東西180cm以上、南北100cm以上の不整形な落込みである。横断面はボウル状となり、確認面からの深さは51cmである。後期初頭の宮戸1 b式併行の土器、磨石1点が出土している。

#### SX 6

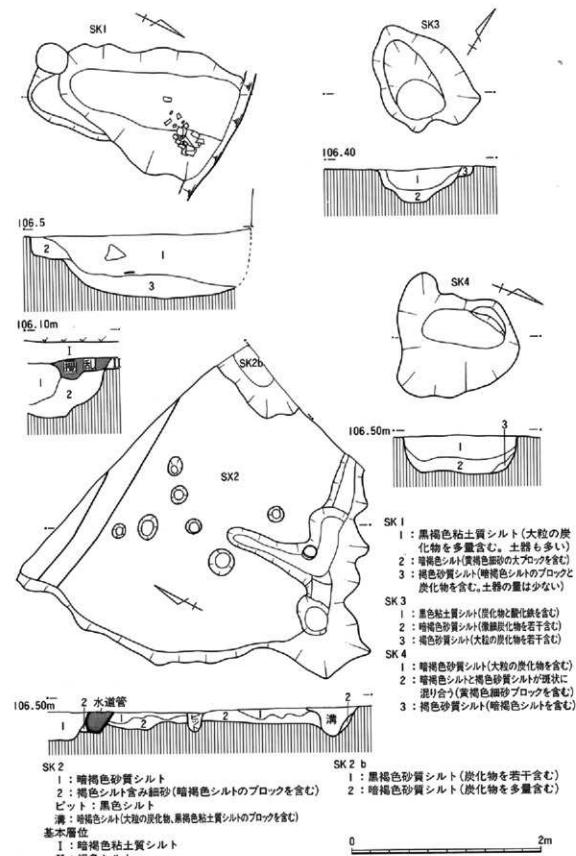
調査区中央東で検出した南北約350cmの落込み。東半部は調査区外となっている。後期頭の土器が出土している。

#### SX 7

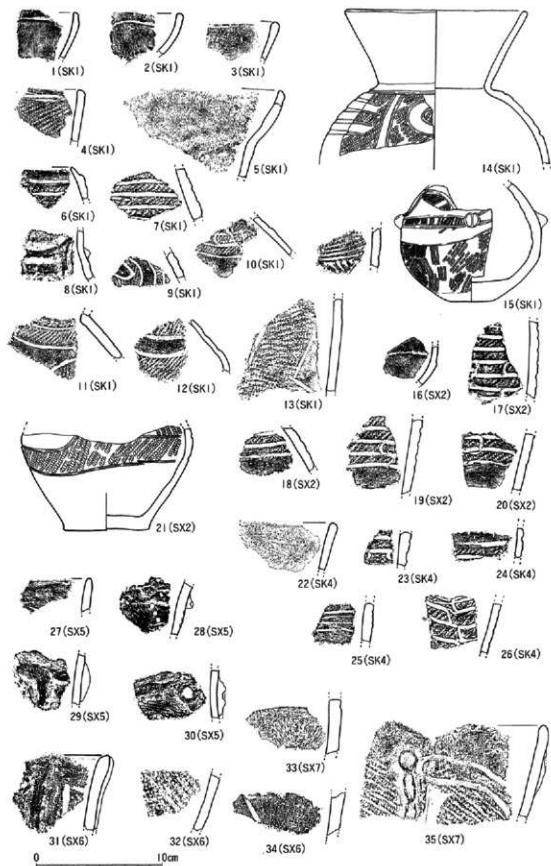
調査区の南東で検出した落込み。底面に凹凸がある。後期初頭の宮戸1 b式併行の土器が出土している。

#### SX 8

SX 7の北西で検出した落込み。文様のある土器は出土していない。



第98図 次の上遺跡検出遺構平面・断面図



第99図 欠の上遺跡出土遺物実測図・拓影図



調査区近景（南から）

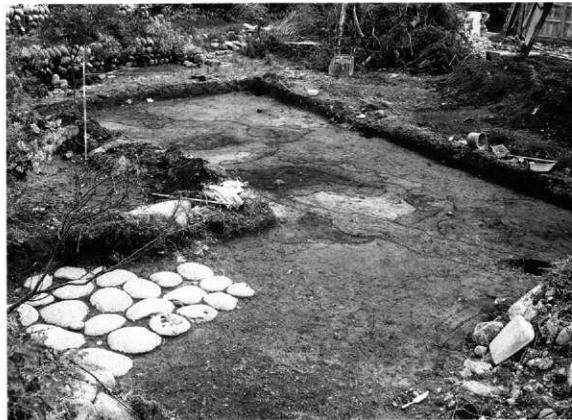


掘り下げ状況（北東から）

図版106 欠の上遺跡（I）



遺構検出作業状況（南西から）



遺構検出状況（南西から）

図版107 欠の上遺跡（2）



遺構検出状況（北から）



遺構検出状況（南から）

図版108 欠の上遺跡（3）



SK 1 内縄文土器出土状況 (北西から)



SK 1 土層断面 (北東から)



SK 1 完掘 (北東から)



SK 1 完掘 (南から)



SX 2 内縄文土器出土状況 (西から)



SX 2 土層断面 (南西から)



SX 2 b 完掘・土層断面 (南から)



SK 2 完掘 (南西から)



SK 3 土層断面 (南から)



SK 3 完掘 (北東から)



SK 4 土層断面 (東から)



SK 4 完掘 (東から)



SX 5 土層断面 (南東から)



SX 5 完掘 (東から)



SX 6 完掘 (南から)



SX 6、7他調査状況 (南から)

図版I09 次の上遺跡 (4)

図版I10 次の上遺跡 (5)



S X 7 検出状況（西から）



S X 7 純文土器出土状況（北から）



S X 7 土層断面（西から）



S X 7 完掘（南から）



石組遺構精査状況（西から）

図版III 次の上遺跡（6）

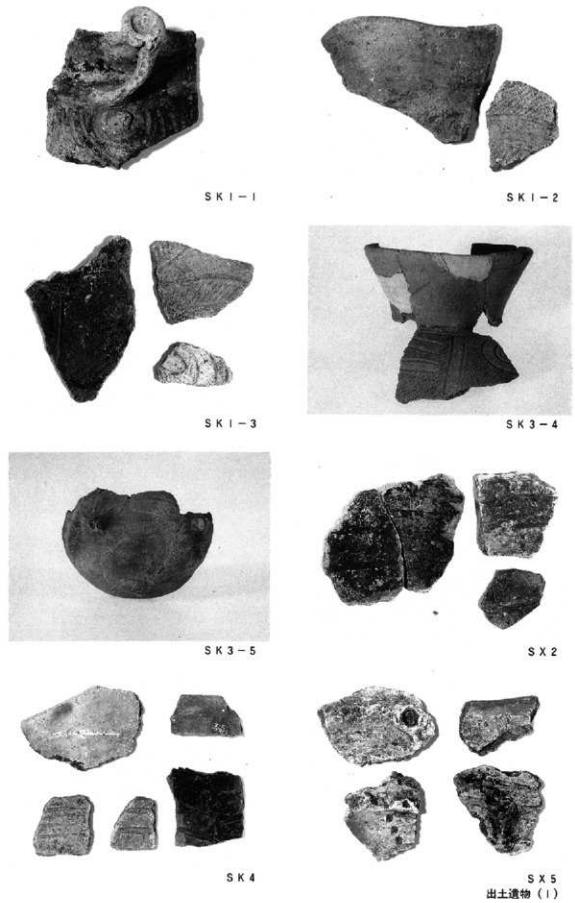


調査区完掘状況（南西から）

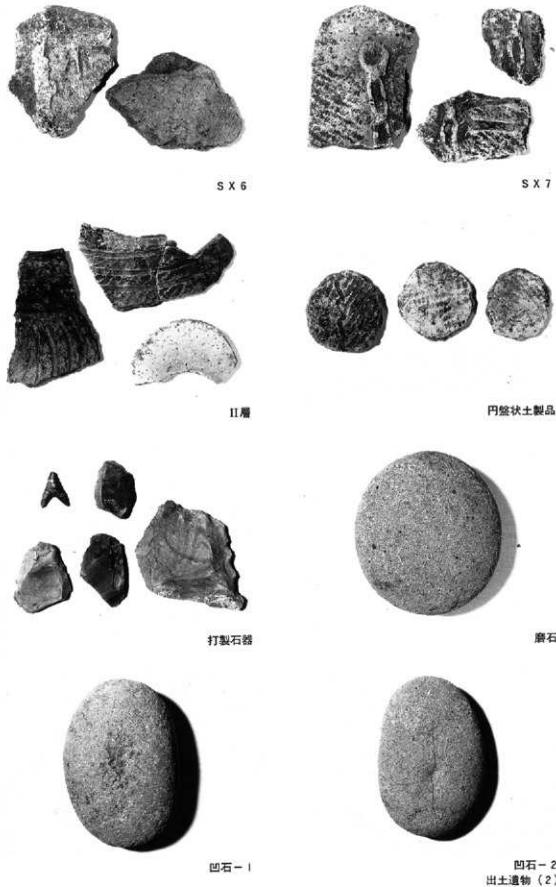


調査区完掘状況（北から）

図版II2 次の上遺跡（7）



図版I-13 次の上遺跡 (8)



図版I-14 次の上遺跡 (9)

(6) 下柳A遺跡(遺跡番号152)

所在地 山形県山形市大字青柳字上柳

調査員 渋谷孝雄

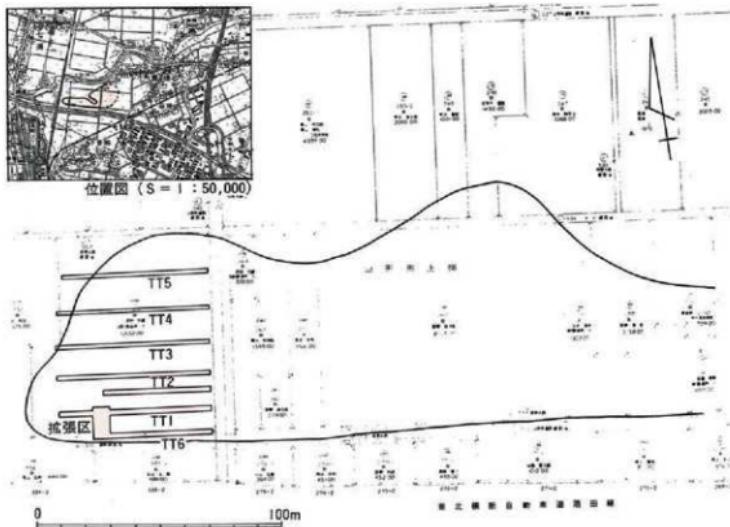
調査期日 B調査 平成9年9月29、30日 発掘調査 平成9年10月7日

起因事業 健康の森公園整備事業

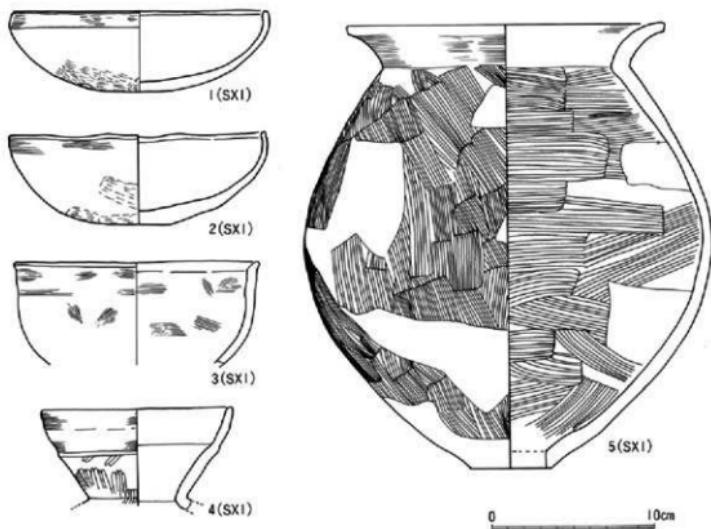
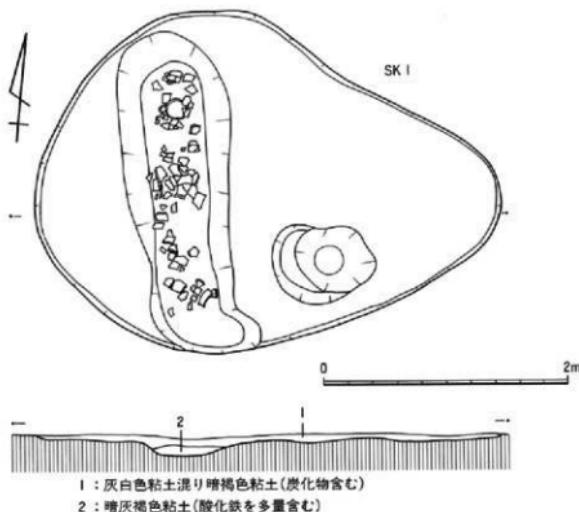
**遺跡環境** JR奥羽本線羽前千歳駅の北北東約1kmに位置し、高瀬川左岸の自然堤防に立地する。平成7年度に県立保健医療短期大学の建設に伴う発掘調査が行われ、古墳時代中期の墓葬が検出されている。

調査状況 調査対象地区は、遺跡の西端にあたり、平成6年度に坪掘り調査を実施しており、若干の土師器が出土していた。今回、公園の造成計画が明らかとなったため、それとも調整のためにトレンチ方式の試掘調査を行ったが、南部のT1とT2で遺構が2箇所で検出されただけで、他のトレンチでは摩滅した土師器が出土するものの、遺構の分布域からは外れていると判断された。遺構検出地点の内1箇所で精査を行ったものである。なお、T6の東半部の調査は平成10年度に予定している。

**調査結果** 浅い土坑が1基検出された。東西364cm、南北262cmの西洋梨形のプランで中央部に一段深い南北に走る溝状の落込みがあり、この中から土師器が集中して出土した。壺、高壺、埴、甕などがあり、接合の結果、全体を知ることができるまでに復元できたものもあった。古墳時代中期南小泉式の古い段階のものとみられる。



第100図 下棚A遺跡概要図



第101図 下柳 A 遺跡検出遺構平面・断面図、出土遺物実測図



TT 1全景 (西から)



TT 2全景 (西から)



TT 3全景 (西から)



TT 4全景 (東から)



TT 5全景 (東から)



TT 5土層断面 (南から)



TT 6全景 (西から)



TT 6東端遺構検出状況 (東から)



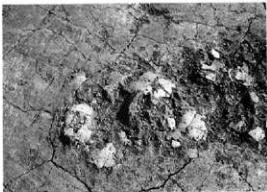
SX 1全景 (西南から)



TT 1拡張区SX 1検出状況 (西南から)



TT 1拡張区SX 1検出状況 (北西から)



SX 1土師器出土状況 (西から)



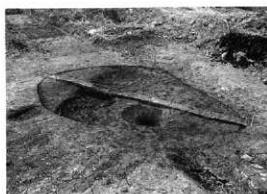
SX 1土師器出土状況 (西から)



SX 1土師器出土状況 (西から)



SX 1土層断面 (南東から)



SX 1全景 (南東から)

図版II5 下柳A遺跡 (1)

図版II6 下柳A遺跡 (2)



S X I 出土坏 1 (3%)



S X I 出土坏 2 (3%)



S X I 出土坏 3 (3%)



S X I 出土堵 (3%)



S X I 出土器 (3%)  
出土土器

圖版II7 下柳 A 遺跡 (3)

(7) 北柳2遺跡 (平成7年度登録)

所在地 山形県山形市大字青柳字北柳

調査員 渡谷孝雄

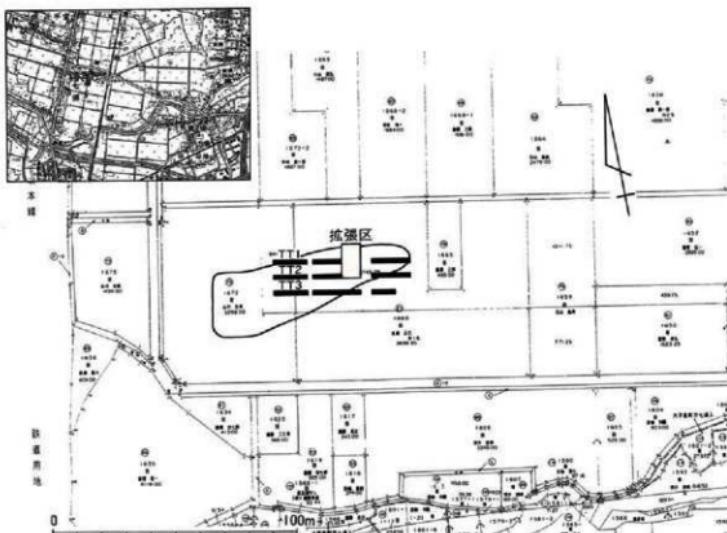
調査期日 B調査 平成9年10月6、7日 発掘調査 平成9年12月8・9日

起因事業 県立中央病院移転整備事業

遺跡環境 J R奥羽本線南出羽駅の南約400mに位置し、高瀬川右岸の自然堤防に立地する。平成7年度の試掘調査で南北トレンチの3本から縄文時代末から弥生時代中期にかけての土器が出土したため、東西80m、南北20mの範囲を北柳2遺跡として登録した。平成8年度に健康の森公園整備に伴って、その南東部の発掘調査が行われたが、みるべき遺構、遺物は検出されなかった。

調査状況 平成7年度の試掘調査後の協議で、盛り土保存との協議が整っていたが、一部が建物の掘削範囲に入る恐れが生じたため、改めてトレンチ方式の試掘調査を実施したところ、掘削範囲ギリギリのところで縄文時代末葉の土器を含む箇所が見つかったため、この部分に限って記録保存の調査を行ったものである。

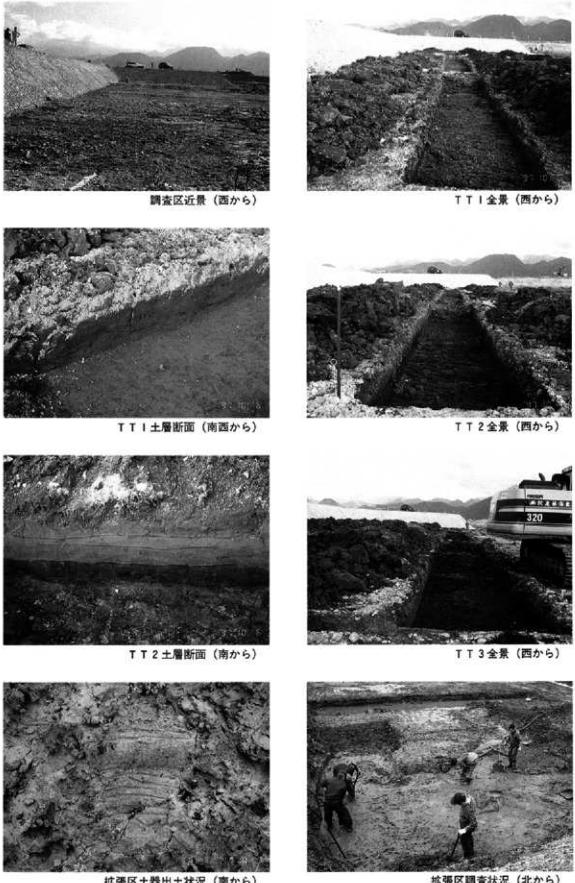
調査結果 拡張区の土層はI～III層に大別され、III層の灰褐色砂質シルトの上半部が包含層となっている。この包含層から変形工字文をもつ土器片とともに深鉢形土器が隣接して3個体出土した。



第102図 北柳2遺跡概要図



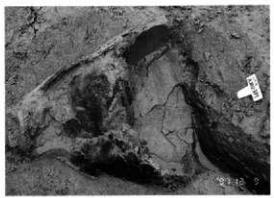
第103図 北柳2遺跡出土土器平面図他



図版118 北柳2遺跡 (1)



R P 1 ~ 3 出土状況（北から）



R P 1 出土状況（北西から）



R P 2 出土状況（北西から）



R P 3 出土状況（北西から）



拡張区土層断面（南から）

図版119 北柵2遺跡（2）



III層

R P 1



図版120 北柵2遺跡（3）



R P 3

出土土器(3)

### IIIまとめ

平成9年度の遺跡詳細分布調査は、平成10年度以降に予定されている開発事業に先行して、遺跡の所在・範囲等を明らかにして開発との調整を図ることを目的として実施した。また、記録保存のための小規模な発掘調査と立会い調査も行った。

調査遺跡は77遺跡を数え、他に遺跡の有無を確認するために12ヶ所の試掘調査も実施し、また、表面踏査で各種開発事業予定地内で13ヶ所の遺跡可能性地も抽出した。今年度新たに発見されて、登録した遺跡は16遺跡である。また、調査の結果、位置や範囲の訂正が必要となった遺跡は15遺跡、調査後の工事で遺跡の全部が壊滅したものや、登録地全域の試掘調査でも遺跡の存在を確認できず抹消が必要となったものが5遺跡である。以下にその一覧を掲げて調査のまとめとする。

なお、本書の発行をもって、新規遺跡の登録、範囲等の訂正が周知されたものとみなす。

#### 1. 新規発見遺跡

| (遺跡名)      | (所在地)        | (時代)       |
|------------|--------------|------------|
| 1 大綱2遺跡    | 余目町大字吉方字大綱   | 平安時代       |
| 2 上川原遺跡    | 朝日町大字玉井乙字上川原 | 绳文時代       |
| 3 長者原2遺跡   | 飯豊町大字小白川字長者原 | 绳文時代       |
| 4 板橋1遺跡    | 天童市大字蔵増字板橋   | 绳文・古墳～平安古代 |
| 5 板橋2遺跡    | 天童市大字蔵増字板橋   | 古墳時代～中世    |
| 6 蔵増押切遺跡   | 天童市大字蔵増字押切   | 古墳時代～中世    |
| 7 阿部塚遺跡    | 天童市大字高塚字阿部塚  | 平安時代       |
| 8 砂子田遺跡    | 天童市大字高塚字砂子田  | 绳文・古墳～平安時代 |
| 9 上ノ代1遺跡   | 上山市大字川口字上ノ代  | 绳文時代       |
| 10 上ノ代2遺跡  | 上山市大字川口字上ノ代  | 绳文時代       |
| 11 八幡西遺跡   | 川西町大字八幡字八幡西  | 平安時代       |
| 12 一ノ坪遺跡   | 山形市大字漆山字一ノ坪  | 平安時代       |
| 13 梅ノ木遺跡   | 山形市大字漆山字梅ノ木  | 平安時代       |
| 14 藤島D遺跡   | 藤島町大字藤島字古楯跡  | 中世         |
| 15 城南一丁目遺跡 | 山形市城南町一丁目    | 绳文・平安時代・近世 |
| 16 北沢遺跡    | 南陽市大字小岩沢     | 绳文時代       |

#### 2. 範囲の変更及び登録の抹消する遺跡

| (遺跡名)   | (変更内容) | (変更を必要とする文献名)    |
|---------|--------|------------------|
| 1 貢坂遺跡  | 範囲の訂正  | 昭和53年3月『山形県遺跡地図』 |
| 2 下当山遺跡 | 範囲の訂正  | 昭和53年3月『山形県遺跡地図』 |

- |            |       |                          |
|------------|-------|--------------------------|
| 3 大綱1遺跡    | 範囲の訂正 | 平成9年3月『分布調査報告書(24)』      |
| 4 太夫小屋1遺跡  | 範囲の訂正 | 平成9年3月『分布調査報告書(24)』      |
| 5 太夫小屋2遺跡  | 範囲の訂正 | 平成9年3月『分布調査報告書(24)』      |
| 6 立泉川      | 範囲の訂正 | 平成9年3月『分布調査報告書(24)』      |
| 7 中川原C遺跡   | 範囲の訂正 | 平成9年3月『分布調査報告書(24)』      |
| 8 泉ヶ丘遺跡    | 範囲の訂正 | 昭和53年3月『山形県遺跡地図』         |
| 9 桶渡遺跡     | 範囲の訂正 | 平成3年3月『分布調査報告書(18)』      |
| 10 百目鬼遺跡   | 範囲の訂正 | 昭和53年3月『山形県遺跡地図』         |
| 11 谷柏J遺跡   | 範囲の訂正 | 昭和53年3月『山形県遺跡地図』         |
| 12 オサヤズ窯跡  | 範囲の訂正 | 昭和53年3月『山形県遺跡地図』         |
| 13 中山城跡    | 範囲の訂正 | 平成8年3月『山形県中世城館跡調査報告書第2集』 |
| 14 津田遺跡    | 範囲の訂正 | 昭和60年3月『津田遺跡発掘調査報告書』     |
| 15 逆川遺跡    | 登録の抹消 | 昭和53年3月『山形県遺跡地図』         |
| 16 立泉川2遺跡  | 登録の抹消 | 平成9年3月『分布調査報告書(24)』      |
| 17 田制館跡    | 登録の抹消 | 平成7年3月『山形県中世城館跡調査報告書第1集』 |
| 18 昭和新田遺跡  | 登録の抹消 | 平成9年3月『分布調査報告書(24)』      |
| 19 ハツ目久保遺跡 | 登録の抹消 | 平成9年3月『分布調査報告書(24)』      |
| 20 万騎の原遺跡  | 位置の訂正 | 昭和53年3月『山形県遺跡地図』         |

表-3 捜索遺跡位置図(2万5千分の1) 案引

| No | 遺跡名    | 図幅名      | No | 遺跡名    | 図幅名      |
|----|--------|----------|----|--------|----------|
| 1  | 大綱1    | 藤島       | 37 | 橘渡     | 山形南部     |
| 2  | 大綱2    | 藤島       | 38 | 百目鬼    | 山形南部     |
| 3  | 貫坂     | 吹浦       | 39 | 萩原     | 山形南部     |
| 4  | 下当山    | 吹浦       | 40 | 谷柏J    | 山形南部     |
| 5  | 家障     | 酒田北部     | 41 | 石田     | 山形南部     |
| 6  | 太夫小屋1  | 米沢北部     | 42 | 六塙     | 山形南部     |
| 7  | 太夫小屋2  | 米沢北部     | 43 | オサヤズ   | 山形南部     |
| 8  | 立奥川    | 新庄       | 44 | オミロク   | 山形南部     |
| 9  | 中川原C   | 新庄       | 45 | 上ノ代1、2 | 上山       |
| 10 | 泉ヶ丘    | 新庄       | 46 | 中山城    | 羽前中山     |
| 11 | 上川原    | 宮宿       | 47 | 飛泉寺跡   | 小国東部     |
| 12 | 羽根沢C   | 富並・延沢    | 48 | 小叶水    | 叶水       |
| 13 | 横山小学校前 | 富並・延沢    | 49 | 原徳原館   | 羽前小松     |
| 14 | 西山     | 余目       | 50 | 八幡西    | 羽前小松     |
| 15 | 西館     | 荒砥       | 51 | 古屋敷    | 吹浦       |
| 16 | 長者原    | 羽前上郷・長井  | 52 | 一ノ坪    | 山形北部     |
| 17 | 烟ヶ沢    | 羽前上郷・長井  | 53 | 梅ノ木    | 山形北部     |
| 18 | 原      | 上山       | 54 | 下柳A    | 山形北部     |
| 19 | 岩谷     | 宮宿       | 55 | 高瀬山    | 寒河江      |
| 20 | 八反     | 谷地       | 56 | 落衣長者屋敷 | 寒河江      |
| 21 | 長者原    | 手の子      | 57 | 次の上    | 上名川      |
| 22 | 長者原2   | 手の子      | 58 | 三滝     | 差首鍋・及位   |
| 23 | 野山IV   | 手の子      | 59 | 三滝2    | 差首鍋・及位   |
| 24 | 横山     | 手の子      | 60 | 大樽     | 米沢       |
| 25 | 万騎の原   | 羽前赤倉     | 61 | 藤島D    | 藤島       |
| 26 | 下原a    | 米沢東部     | 62 | 山田     | 鶴岡       |
| 27 | 飯沢館    | 長井       | 63 | 城南一丁目  | 山形城・山形郡  |
| 28 | 飯沢北館   | 長井       | 64 | 北沢     | 中山       |
| 29 | 的場     | 寒河江      | 65 | 箕輪櫛    | 吹浦       |
| 30 | 板橋1    | 寒河江      | 66 | 大浦d    | 米沢北部・藤野目 |
| 31 | 板橋2    | 寒河江      | 67 | 四ツ塚    | 谷地       |
| 32 | 蔵焼押切   | 寒河江      | 68 | 北柳2    | 山形北部     |
| 33 | 阿部塚    | 寒河江      | 69 | 田制館    | 羽前小松     |
| 34 | 中袋     | 寒河江      | 70 | 米沢城跡   | 米沢       |
| 35 | 砂子田    | 寒河江・山形北部 | 71 | 荒谷原・山王 | 天童・山寺    |
| 36 | 影沢北    | 山形北部     | 72 | 沢田     | 赤湯       |

## II部

## 小山崎遺跡発掘調査報告書(2)

—石器、骨角器、土製品、木製品—

## IX 出土した石器、石製品

発掘調査で出土した石器は96点であり、その内訳は下表に示した。打製石器の石材は頁岩、メノウ、玉髓、鉄石英、黒曜石等多様であり、頁岩が最も多いが県内の他の石器時代の遺跡と比較するとその全体に占める割合は高くはない。頁岩を採取できる最上川や相沢川までの距離が20kmを越えることもその一因であろう。頁岩以外の石材は大きくても握り拳大で、石核、剣先とも概して小形である。

確認された器種は打製石器の石鋸、石鑿、石匙、石箆、搔器、削器、ピエスエスキュー、磨削石斧、砾石器の磨石、凹石、石鍬、石皿がある。剥片の一部に不規則な加工のあるものを探してみると、いわゆるトルルは334点であり、全体に占めるトルルの割合が高い。打製石器が66点、磨削石器が22点、砾石器が246点となっている。その比率は打製石器19.8%、磨削石器6.5%、砾石器7.6%で磨削器の比率が最も高いということができる。

石製品では粘板岩製の石拂 2 点 (48、49)、偏平な礫の周辺を打ち欠いた円盤状石製品 6 点 (国版 5)、ヒスイの差形の製品 1 点 (37) がある。次に各器類の概要を記す。

出土石器一覽

| 地點                    | T3 |    |    | T4 |    |    | T5 |    |    | T6 |    |    | T7 |    |    | T8 |    |    | T9 |    |    | T10 |    |    | T11 |    |   |  |
|-----------------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|-----|----|---|--|
|                       | 西2 | 西3 | 西4 | 北1 | 北2 | 北3 | 西2 | 西3 | 西4 | 北1 | 北2 | 北3 | 西2 | 西3 | 西4 | 北1 | 北2 | 北3 | 西2 | 西3 | 西4 | 北1  | 北2 | 北3 | 合計  |    |   |  |
| 石<br>綱                | 1  | 1  | 1  |    |    |    | V  | V  | V  |    |    |    | V  | V  | V  |    |    |    | V  | V  | V  |     |    |    | 1   | 1  | 1 |  |
| 石<br>綱                |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |    |    | 9   |    |   |  |
| 石<br>綱                |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |    |    | 9   |    |   |  |
| 石<br>綱                |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |    |    | 9   |    |   |  |
| 石<br>綱                |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |    |    | 8   |    |   |  |
| 石<br>綱                |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |    |    | 10  |    |   |  |
| アーバンスクエア              |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |    |    |     |    |   |  |
| 小<br>田                | 0  | 0  | 2  | 2  | 0  | 0  | 1  | 0  | 0  | 1  | 0  | 1  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0   | 1  | 2  | 0   | 0  | 0 |  |
| 新<br>潟<br>市<br>役<br>所 |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |    |    |     |    |   |  |
| 新<br>潟<br>市<br>役<br>所 | 0  | 0  | 6  | 6  | 5  | 4  | 3  | 2  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1   | 1  | 1  | 1   | 21 |   |  |
| 新<br>潟<br>市<br>役<br>所 |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |    |    |     |    |   |  |
| 新<br>潟<br>市<br>役<br>所 |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |    |    |     |    |   |  |
| 石<br>綱                |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |    |    |     |    |   |  |
| 石<br>綱                |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |    |    |     |    |   |  |
| 石<br>綱                |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |    |    |     |    |   |  |
| 小<br>田                | 5  | 6  | 2  | 7  | 5  | 4  | 0  | 4  | 2  | 4  | 0  | 0  | 0  | 0  | 2  | 4  | 0  | 0  | 1  | 2  | 0  | 0   | 0  | 1  | 0   | 6  |   |  |
| 加工<br>料<br>件          |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |    |    |     |    |   |  |
| 加工<br>料<br>件          |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |    |    |     |    |   |  |
| 加工<br>料<br>件          |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |    |    |     |    |   |  |
| 加工<br>料<br>件          |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |    |    |     |    |   |  |
| 小<br>田                | 1  | 0  | 0  | 20 | 7  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0   | 0  | 0  | 0   | 0  | 0 |  |
| 合<br>計                | 6  | 6  | 29 | 32 | 4  | 14 | 1  | 2  | 7  | 0  | 1  | 7  | 1  | 7  | 6  | 6  | 7  | 1  | 7  | 9  | 3  | 1   | 0  | 1  | 0   | 97 |   |  |

### 石 錐 (第1図 1~12)

10点が出土した。1、2は前期の包含層からの出土で、3、4もその可能性がある。6の基部にはアスファルトが付着している。2、6、9、11、12が頁岩、3~5、8が玉髓、1、7、10はメノウ製である。

### 石 錐 (第1図 12~16)

9点が出土した。長い尖頭部を持ち、この部分の断面形が四角形となる13、16。断面形が凸レンズ状となる14。尖頭部と基部の境界が不明瞭で棒状の形となる15の他、剥片の末端にノッチを入れて尖頭部を形成しているもの等がある。

### 石 匕 (第1・2図 17~22)

10点の出土がある。摘み部が欠損しているが縦形で縁辺部に丁寧な加工が施される17、18は前期の可能性が高い。19の摘み部にはアスファルトが付着しており、幅0.5mm程の横走する空白部が観察される。摘み紐を巻いてアスファルトで固定したものと考えられる。

### 石 篓 (第2・3図 23~28)

9点の出土があるが、26~28のように製作段階の未製品も存在する。小形で刃部の両面に種々剥離が認められる23や刃部が片面加工となる24、25などがある。

### 搔 器 (第3図 29~32)

剥片の末端や基部、或は側縁に角度の高い加工を施して刃部とする石器で8点の出土がある。29は素材の基部側に刃部をもつ縱形の搔器である。

### 削 器 (第3・4図 33~36)

剥片の側縁や末端に素材の主要剝離面側から背面に連続する角度の低い調整加工を施して刃部とする石器で19点の出土がある。36は素材の末端に刃部をもち、34は右側縁に平坦剝離が施されており、35、36は縦長剥片の右側縁に浅い加工が施されている。

### ビエスエスキュー

全長33mm、幅18mmで兩極刻離をもつ石器が1点出土している。

### 磨製石斧 (第4・5図 38~48)

22点の出土がある。完形品は39に示した小形の1点だけである。刃部をもつ資料が6点、基部をもつ資料が5点、中間部資料が4点、破片資料が4点となっている。

### 磨 石 (第6図 51~67)

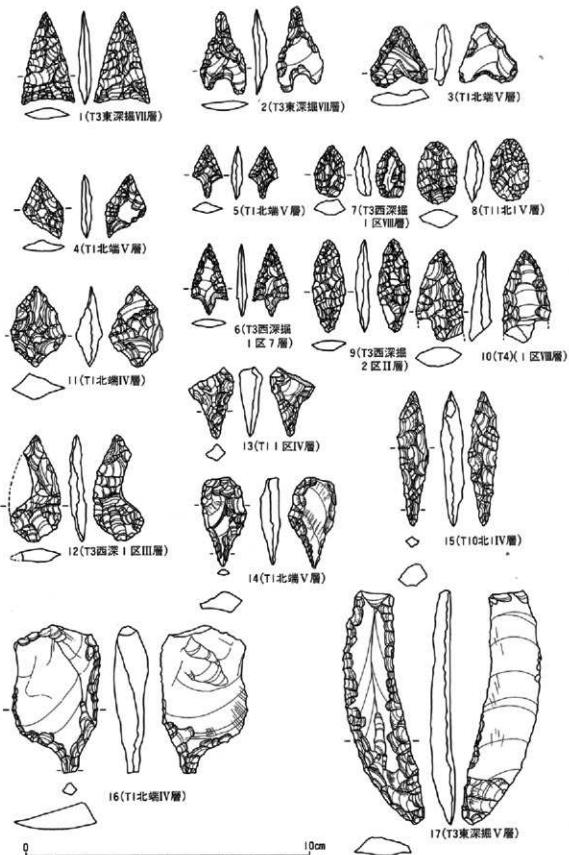
川原石の一部が使用によってすり減った砾石器で、全部で213点の出土がある。使用ですり減った面が1面から最大6面までのものが存在するが、広い裏面の裏面に磨痕をもつものが多数を占める。

### 凹 石 (第7図 68~78)

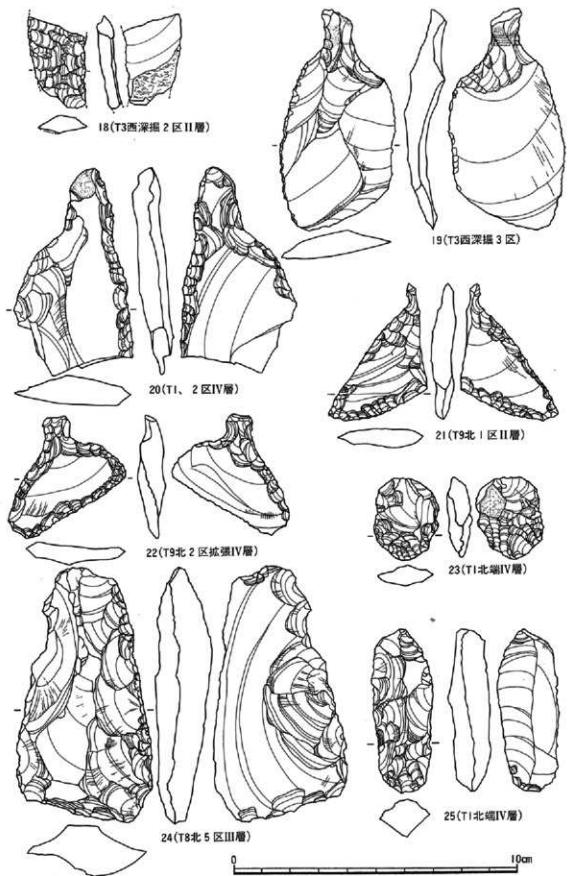
川原石の一部が敲打による凹みが認められる石器で、31点の出土がある。例外なく磨痕をもち、1面に凹みをもつもの、2面に凹みをもつもの、さらに複数の凹みが認められるものがある。

### 石 盔 (第7図 79)

T9北2塗張区の配石遺構から中央部が擂鉢状に窪む形状の石皿が出土した。

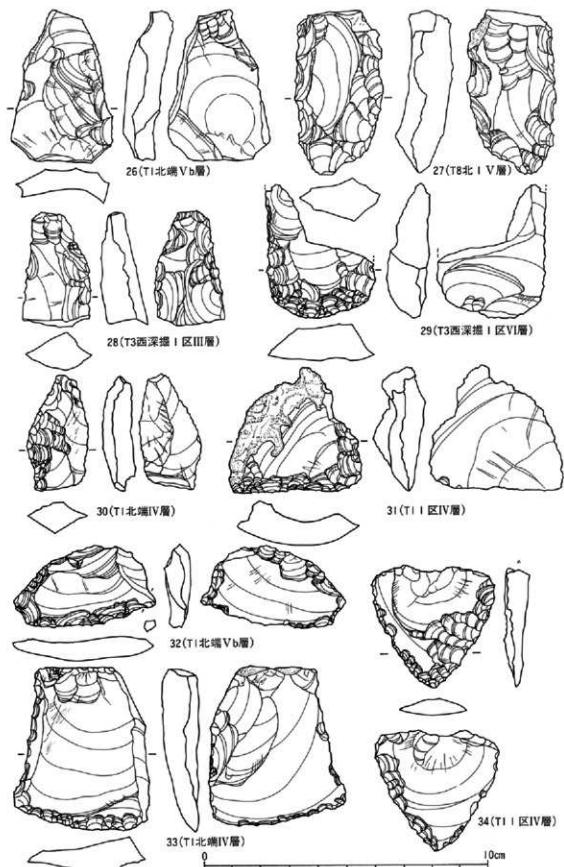


第1図 出土石器実測図 (I)



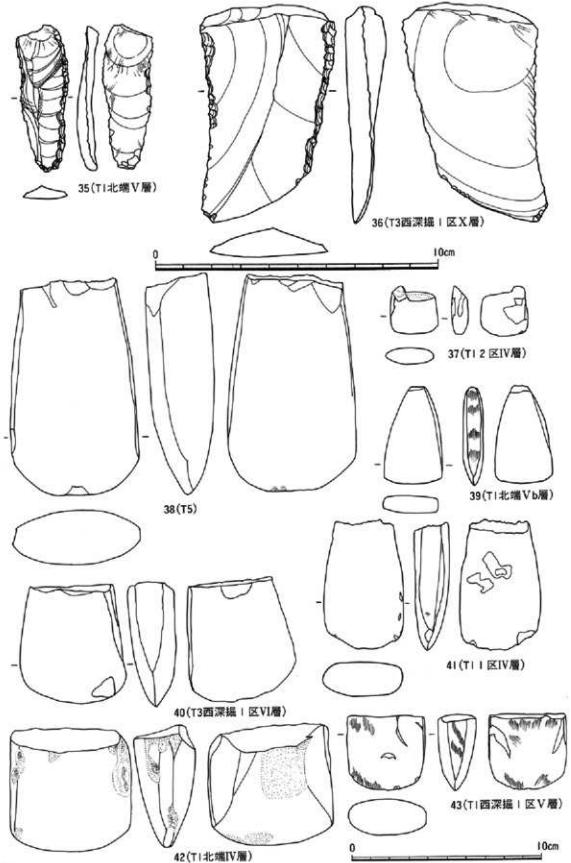
第2図 出土石器実測図（2）

— 240 —

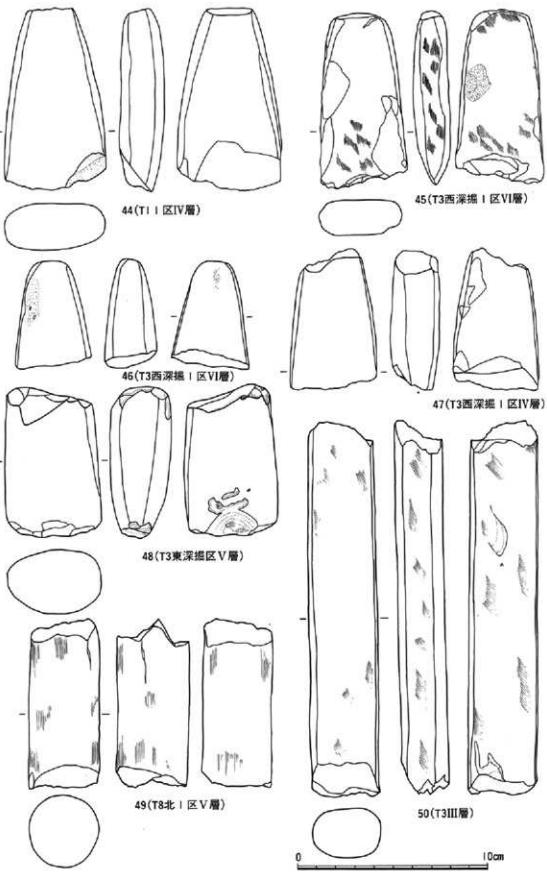


第3図 出土石器実測図（3）

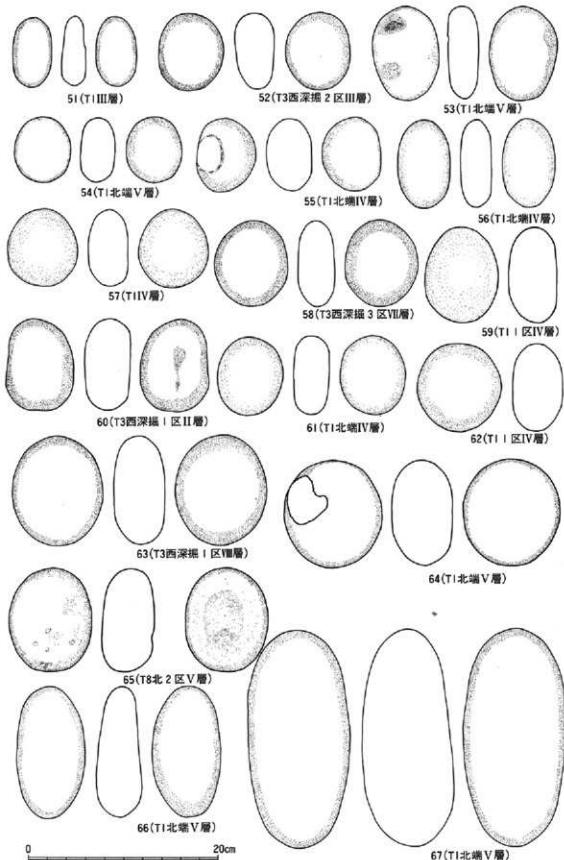
— 241 —



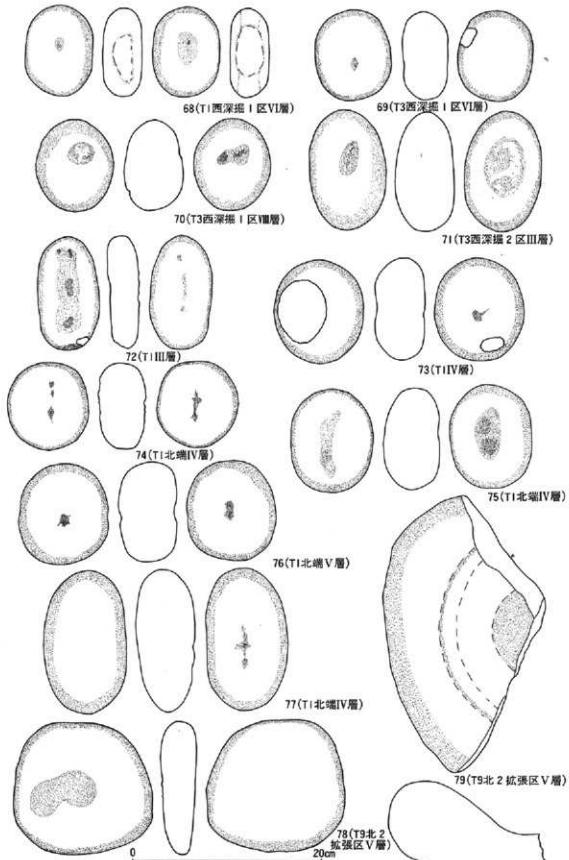
第4図 出土石器実測図(4)



第5図 出土石器実測図(5)



第6図 出土石器実測図(6)



第7図 出土石器実測図(7)

## X 出土した骨角器等

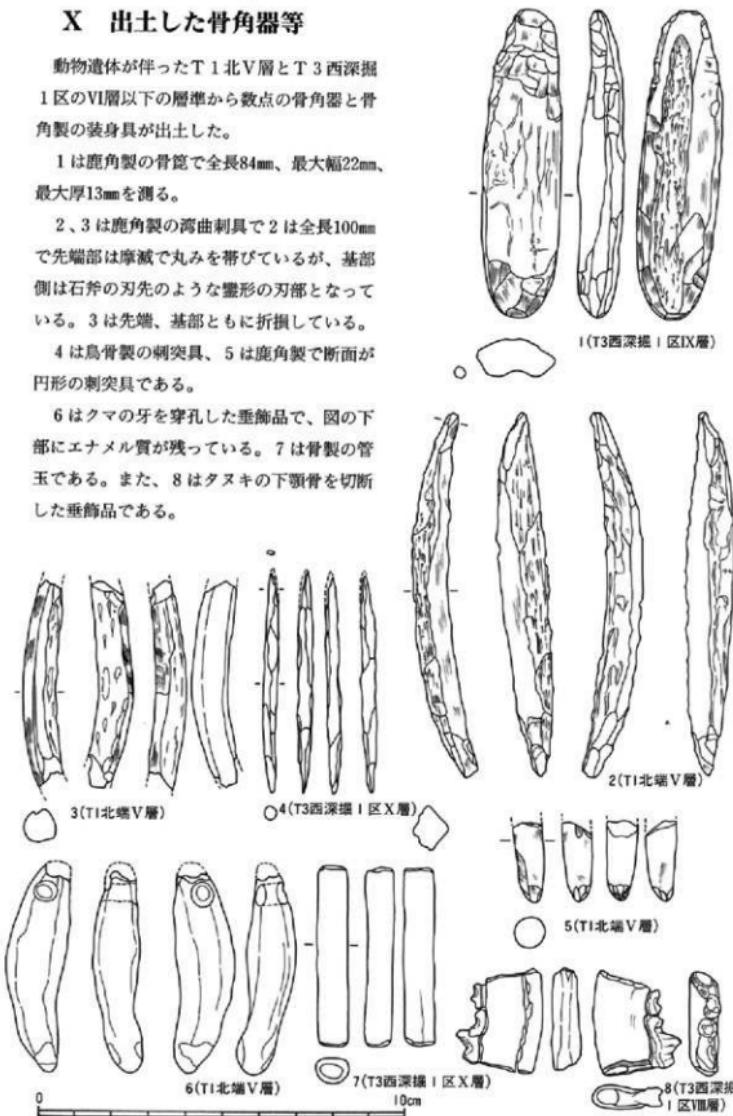
動物遺体が伴ったT1北V層とT3西深掘1区のVI層以下の層準から数点の骨角器と骨角製の装身具が出土した。

1は鹿角製の骨箇で全長84mm、最大幅22mm、最大厚13mmを測る。

2、3は鹿角製の湾曲刺具で2は全長100mmで先端部は摩滅で丸みを帯びているが、基部側は石斧の刃先のような鑿形の刃部となっている。3は先端、基部ともに折損している。

4は鳥骨製の刺突具、5は鹿角製で断面が円形の刺突具である。

6はクマの牙を穿孔した垂飾品で、図の下部にエナメル質が残っている。7は骨製の管玉である。また、8はタヌキの下顎骨を切断した垂飾品である。

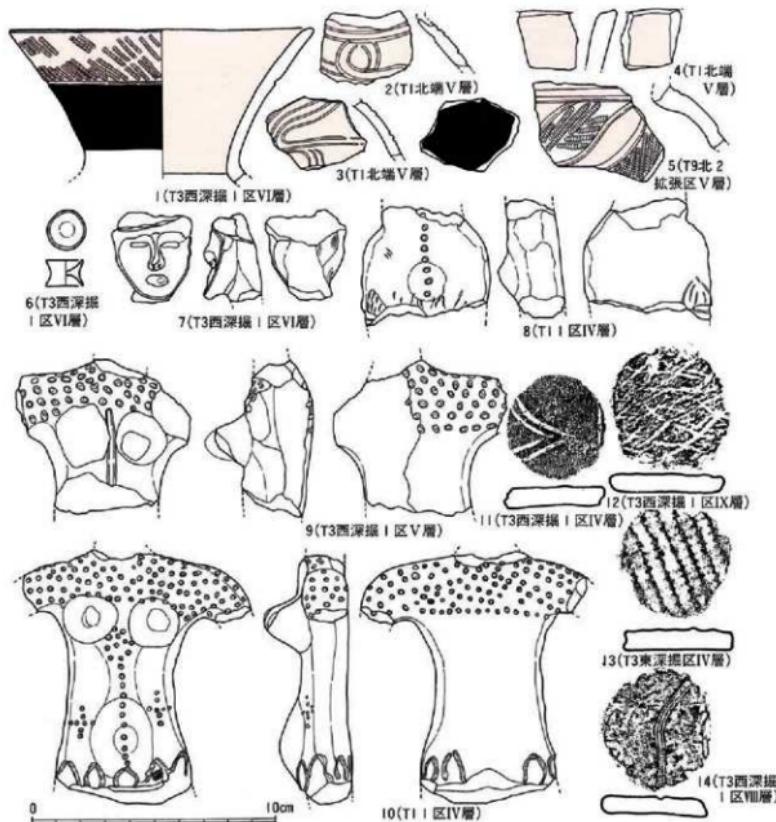


第8図 出土骨角器、骨角製品実測図

## XI 出土した漆塗土器、土製品

赤漆や黒漆で彩色された土器が数点出土している。1は壺の口頸部の資料で口縁下位に網文が施されてから赤漆で彩色され、その下位が黒漆、頸部から下位が赤漆、内面は全面が赤漆で彩色されている。2、3は壺の体部破片であり、細い沈線で文様が描かれた後、表面が赤漆で彩色されている。3の裏面は黒漆で彩色されている。4は表裏面とも赤漆で、5は網文施文後に赤漆が施されている。

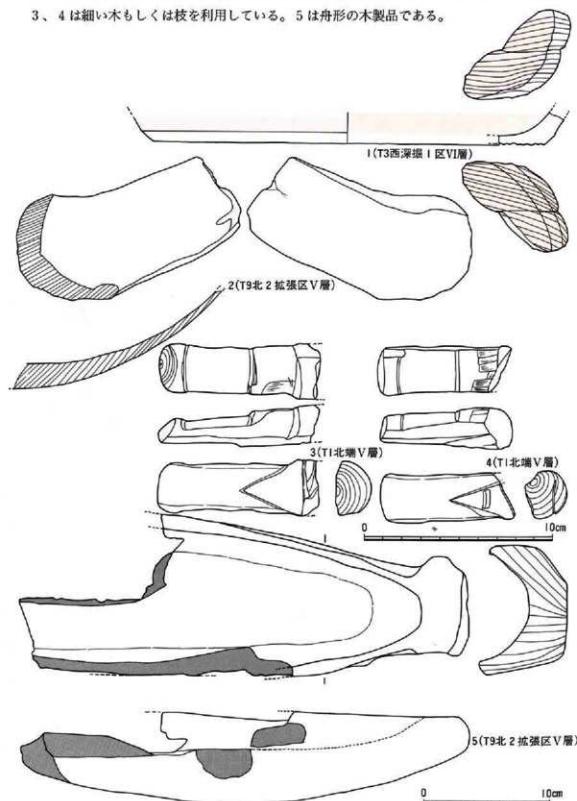
6は耳栓で全面に赤漆が施されている。7～10は土偶でいずれも後期の特徴を有している。11～14は円盤状土製品で全部で22点が出土している。



第9図 出土漆塗土器、土製品実測・拓影図

### III 出土した木製品

漆器の破片、弓の弓弭とみられるもの、舟形木製品が出土している。漆器は小破片まで含めて3点である。1は内外面赤漆の盤、2は赤漆の痕跡が残る大形の高环と考えられる。3、4は細い木もしくは枝を利用している。5は舟形の木製品である。



第10図 出土木製品実測図



図版 I 小山崎遺跡漆器、漆塗土器



装飾品、アスファルト付着石器



骨角器

図版2 装飾品、アスファルト付着石器、骨角器



T3 東深掘区VI層出土石鏃、石匙



T1+3+4出土石鏃 (%)



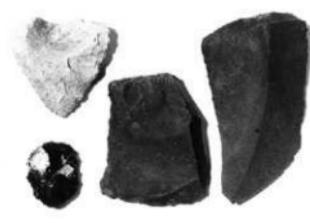
石鏃他



石匙



範状石器



スクレイバー



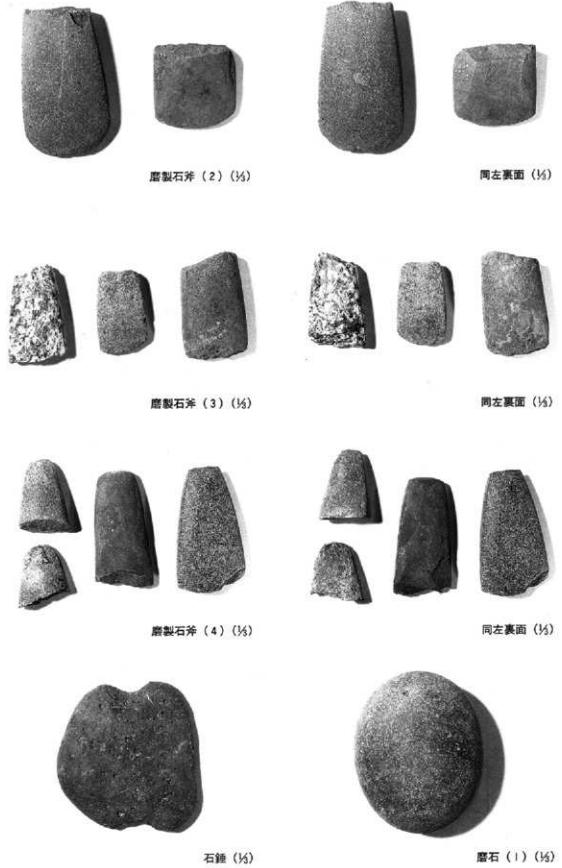
磨製石斧 (I) (%)



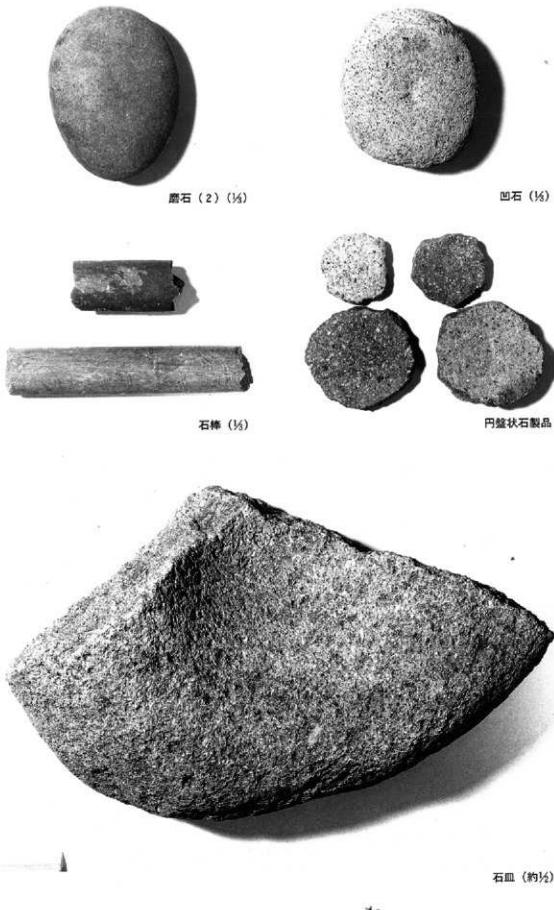
同左裏面 (%)

図版3 出土石器 (I)

-4-



図版 4 出土石器 (2)



図版 5 出土石器 (3)



土偶 (分)



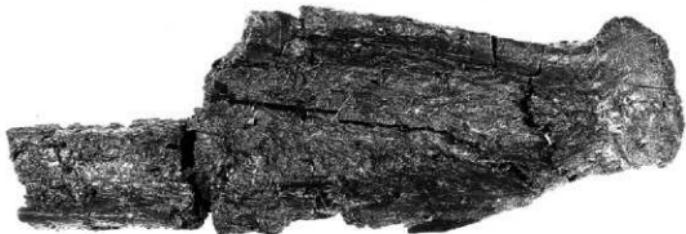
同左裏面



土偶 (分)



円盤状土製品 (分)



舟形木製品 (約分)

圖版 6 出土土製品、木製品

---

山形県埋蔵文化財調査報告書第199集  
分 布 調 査 報 告 書 (25)

平成9年度以降農林土木事業他関係遺跡  
東北中央自動車道上山東根間関係遺跡  
山形ニュータウン整備事業関係遺跡  
小山崎遺跡発掘調査報告書 (2)

平成10年3月25日 印刷

平成10年3月31日 発行

発行 山形県教育委員会

印刷 山形印刷株式会社

